事	52 番枝	199	- 奥飛騨温泉郷イベント開催事業	担当課			上宝支所 基盤産業課	内線 3931	
	会計 1 一般会計			特 位別	0	Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予	予 算 項		商工費	므로		В	一般予算の上乗せとして実施されている事		
算			観光費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業	
	目	1	観光振興費	່"		D	その他事業		
	根拠計画		地域振興計画						
i	市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地はじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広・高山市を訪れる年間観光 客500万人、外国人観光	域ネットワー	ク化	を図	ります。		

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,359					
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・交流人口(観光客)の増加による地域活性化							
概要	事業の 実施手法 (手段)	実施手法・奥飛騨温泉郷の地域特性や自然環境を活かした集客イベントを、四季を通じて実施する							

2 事業の推移・結果(Do)

「栃尾温泉桜まつり」「北アルプス自然感謝祭」等、15のイベントを開催 H24の実績

イベント開催回数	指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
イベント開催回数	1		目標値	15	15	15
	•		実績値	15	15	- 10
data i Li Hai Hai data					100	
算出根拠等			達成率(%)	100		-
イベント期間中の)来客数	Д				75,000
						-
						-
観光客の延入込	入认客数			1,300	1,500	1,500
				1,220	1,170	-
算出根拠等			達成率(%)	94	78	-
			目標値			
			実績値			-
算出根拠等			達成率(%)			-
			目標値			
			実績値	実績値		-
算出根拠等			達成率(%)			-
			目標値			
			実績値			-
算出根拠等			達成率(%)			-
	イベント期間中の 第出根拠等 観光客の延入込 算出根拠等 第出根拠等 算出根拠等	イベント期間中の来客数 算出根拠等 観光客の延入込客数 算出根拠等 算出根拠等 算出根拠等	イベント期間中の来容数 人 算出根拠等 観光客の延入込客数 千人 算出根拠等 算出根拠等 算出根拠等	イベント期間中の来客数 人 目標値 実績値 算出根拠等 達成率(%) 観光客の延入込客数 千人 目標値 実績値 算出根拠等 達成率(%) 日標値 実績値 達成率(%) 日標値 実績値 達成率(%) 日標値 実績値 達成率(%) 日標値 実績値 達成率(%) 日標値 実績値 達成率(%)	イベント期間中の来容数 人 目標値 実績値 75,000 実績値 第出根拠等 達成率(%) 66 観光客の延入込客数 千人 目標値 実績値 1,300 実績値 第出根拠等 達成率(%) 94 日標値 実績値 達成率(%) 算出根拠等 達成率(%) 日標値 実績値 達成率(%) 日標値 実績値 達成率(%) 第出根拠等 連成率(%)	イベント期間中の来客数 人 目標値 75,000 75,000 算出根拠等 達成率(%) 66 69 観光客の延入込客数 千人 目標値 1,300 1,500 実績値 1,220 1,170 第出根拠等 達成率(%) 94 78 目標値 実績値 算出根拠等 達成率(%) 算出根拠等 達成率(%) 日標値 実績値 第出根拠等 達成率(%)

平成23年度の「平湯大滝結氷まつり」は、事故の影響で前年の60%滅の来客数となった

			(人件費る	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
				歳出 (千円)	(A)	13,600	13,300	12,100
コス	財	受益	者負担(使用料	·負担金等)				
۲	源	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
面	訳	一般	財源			13,600	13,300	12,100
	ت =	^ I"	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	3,915	3,888	3,602
	指	標	受益者	上宝支所管内の市民(4月)	日現ぞ (B)	3,474	3,421	3,359

J	分析・評価(CI 評価項目	heck) ※平成24年度の実績を 評価観点	2 6千1四		評価	<u>某進</u>	評価	評価内2	容の説明(評価の理由等)				
	III IM-X II	2,	U4.105	A (2)	ニーズが高い	2 +	В Г ІМ	61 July 23	B-の町台(山間の石田寺)				
1	市民ニーズの確認	事業実施に対する市民ニーズの傾向か社会情勢の変化など時の経過に伴い		B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	・奥飛騨温泉郷で計画し 民にとっても楽しめるも	しているイベントは、観光客のみならずī のである				
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い								
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない		・当事業は(一社)奥飛駅	単温泉郷観光協会が中心となり組織する				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していない。	か	B (1)	一部見直しが必要	!である	А	政が一体となって誘客・	実行委員会」が実施しており、市民と行 イベント開催による地域の活性化を図る				
				C (0)	市が実施する必要	性が低い		上で市が参画することは妥当である					
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている			込んだが、H24年度はH22年度の来客				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況に	はどうか	B (1)		ある程度あがっている	В	向にあることから、前年	理飛騨温泉郷全体の入込客数が減少傾 を踏襲するイベント内容の見直しや、よ				
	・最小限のコストで車業を実施できているか			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		り集客を見込めるイベントの開催について検討する必要がある					
	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省カ化に向け実			A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない			・事業費削減に併せてイベント内容を見直してはいるが、イベ					
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負減する余地はないか	担を軽	B (1)		減等がある程度図られている	В		るためにはある程度の投資は必要であ				
		・受益者負担は適正か		C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必							
		《あったか 総合計画及び主要計画等の目標達成を図る		事業の実施が市の政策、施策の推進に効果 があったか 総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか ・		があったか		A (2)	効果があった				
⑤	政策面に おける効果					B (1)	(1) ある程度効果があった		Α	・奥飛騨全体の入込客数が減少する中で、イベントへの来客 は増加していることから、当事業の効果は表れているといえ			
		か	EREC/C	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった							
		솜計		8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80 [±]				
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	果題・前年の内容を踏襲するイベ りに何が て抜本的に検討を行う必要が		客数を減	少させているのに対	けし、新規のイベントが取り」	上めたイ ^	ント以上の来客を集めて	ていることから、イベントのあり方につい				
	(参考) H24事業評価約 (二次評価)	・地域主体の事業とすべく、も・各種効果について分析を行					る必要が	 5る。					

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・イベント内容や実施時期等を精査し、少ない投資で最大の効果が得られるよう検討を行い実施する

		維持·改善		拡大	0	縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	·地域	豪興特別予算終了を見据 に	にて、よ	り効果的なイベントのありブ	ちを検言	र् ग के विकास के किया के किया किया किया किया किया किया किया किया		
								,
		維持·改善		拡大	0	縮小	廃止の検討	H25完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価) ・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、行政の支援を縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、各イベントのあり方について検討する必要がある。

事	95 番枝	199	地域スポーツ振興事業 (スキー大会支援事業)	担当課			上宝支所 地域振興課	内線 3913
	会計		一般会計	_位 特	0	Α	合併前から実施されているイベント・行	事
			教育費	位別 置予		В	一般予算の上乗せとして実施されてい	る事業
算	項	5	保健体育費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業
	目	1	体育総務費	່"		D	その他事業	
	根拠計画		地域振興計画					
1	市長公約							

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	大会に参加する児童数	対象者数	120	人
目的		地元でのジュニアスキー大会開催により、スキー人口減少の抑制、スキ 域の活性化に資する。	ーレベルの向上と交流	・ 流人口の増加に伴う	地
概要	事業の 実施手法 (手段)	平湯温泉大滝山ジュニアアルペンスキー競技大会 ・上位入賞者への賞品(トロフィまたは楯)の授与			

2 事業の推移・結果(Do)

H24の実績	スキー大会参加者	N=111名

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	スキー大会参加	.*		目標値	120	120	126
	動指	人十一人云参加	11名		実績値	115	111	-
	標	算出根拠等	スキー大会出場者数	•	達成率(%)	96	93	-
	成	A to # 100 to #	- High to 物		目標値	105	105	105
	果指	参加者増加率		%	実績値	91	96	-
	標	算出根拠等	当年参加者数/前年参加者数		達成率(%)	87	91	-
					目標値			
成					実績値			-
成果		算出根拠等			達成率(%)			-
面					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		•	達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			ı
					目標値			
					実績値			1
		算出根拠等			達成率(%)			-
				44	口古古			

			(人件費る	事業費 を除き繰越・補正を含む	;)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
				歳出 (千円)	(A)	67	67	70
コス		受益	者負担(使用料	•負担金等)				
+	源内	その	他特定財源(国	·県支出金·起債等)				
面	記一般財源					67	67	70
	コスト 受益者1件当たり(円) (A/B)		583	604	556			
	指	「			(B)	115	111	126

3	分析・評価(C		2評価							
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い	ニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	スキーレベル向上策の。 トとして必要である。	みにとどまらず、冬季観光の	の誘客イベン
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い					
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない			#455547-1 +a	
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していない。	か	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	市が上位入賞者に対し、賞を授与することで、市の7次総目 「人々のこころを魅了する滞在型、通年型の観光地づくりを (多様な観光需要への対応)」を具現化している。		
				C (0)	市が実施する必要	性が低い		(91x-0xx)/(m) x -0//	1767]25496100 (0.08	
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の ・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどう			B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	大会参加者数は、ほぼ横ばい傾向である。		
				C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実			A (2)	事業効率化・コスト組	宿滅等の改善の余地はない		益井廷日北田ウナム で	1.74 b. #0.***	+^#45
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負	担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	Α	競技種目が固定されているため、賞の数量を減らす余地 い。また、「賞」であるがゆえ安価な物品の授与であっても 者にとって技術向上に対する意識高揚に繋がる。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か		C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必		are y example.	17 0 0000000000000000000000000000000000	
		・事業の実施が市の政策、施策の推進があったか	に効果	A (2)	効果があった			6		- A 1 4 1 5
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成 上で有効に機能したか		B (1)	ある程度効果があ	った	Α	冬季の観光誘客に加え、入賞を目指して大会全体のレベル 上が図られていることから、市の7次総目標「競技スポーツ 及と競技力の向上を図る」に繋がる効果があった。		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機 か	能した	C (0)	あまり効果が見られ	れなかった		XCM(X/)	@11-38% @33X% 03 37C	,
		合計	8	8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80	点
(۲,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題 参加者を増加させるために かに何が 選択が求められる。	は、大会参	参加者で	ある小学生にとって	魅力ある賞品の授与が効!	果的であ	I る。 限られた予算のなか [、]	で、小学生の意識高揚に繋	きがる賞品の
(参考)										

H24事業評価結果 (二次評価)

・地域の自主的な活動とすべく、報償費の段階的な引き下げを行う必要がある。・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

予算の範囲内で参加者増に繋がる賞品の選択を検討する必要がある。

維持·改善

	0	維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	参加者	ら 増加を促す魅力ある賞品	提供の	ために内容の工夫検討が。	必要でも	5 გ.		

0

縮小

廃止の検討

H25完了予定

	二次記		
企画課·	総務課	財政部	果評価)

特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。

拡大

-	事業名 = 2 番	1899 ts	- 巨樹巨木保護事業	担当課			上宝支所 基盤産業課		
	会計	1	一般会計	位置 位置 行		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
	予 算 項		総務費		0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	いる事業	
箅			総務管理費	17 算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	18	環境政策費	′′		D	その他事業		
	根拠計画	Ī	地域振興計画						
	市長公約	3	積極的な観光振興策を実施します ・飛驒高山の自然環境を生かしたグリーンツーリズムに加え 製品をつくるクラブシーリズムなど、地元の産業と一体とな 豊かな自然環境を守り、環境モデル都市をつくります ・市民生活の中に自然環境を活かした街づくりを進めます。	った新たな旅				自分だけの	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,097	人						
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・林野庁の「森の巨人たち百選」に選定された「平湯の大ネズコ」の保全及び周辺環境の整備									
概要	事業の 実施手法 (手段)	・保全団体へ補助金を交付することにより、保全管理・周辺環境整備・広	報活動を支援する								

2 事業の推移・結果(Do)

		H24の実績	・歩道整備 8回 ・学習会の開催 1回(10/19栃尾小	学校)				
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活言	整備回数		0	目標値	4	4	4
	動指	歪哺凹奴		ш	実績値	7	8	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	175	200	-
	成	学習会の開催			目標値	1	1	1
	果指	子自云の別准			実績値	2	1	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	200	100	-
					目標値			
成					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
面					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

		(人件費	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	50	50	50
コス		益者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源って	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
面		一般財源			50	50	50
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	1	1	1
	指標	受益者	全市民(4月1日現在)	(B)	93,312	92,861	92,097

3	分析·評価(C	heck) ※平成24年度の実績を記	評価							
	評価項目	評価観点		評価。	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は	Α ‡どう	(2) ニーズが高い			・国(林野庁)の選定で	あるため、「平湯大ネズコ」の)保全は市民	
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い=	=−ズ B	かる程度のニーズ	がある	В	のみならず国民全体の財産の保全に繋がる ・国立公園内に位置し自然保護のシンボル的な巨木では が、事業主体の予算規模が小さく充分なPRができていなし			
		は減少していないか	С	(0) ニーズが低い			か、事業主体の予昇規	模が小さく充分なPRかでき	ていない	
			А	(2) 事業主体を見直す	余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	В	一部見直しが必要	である	Α		巨木保全協議会であり、自然 成を行うことは妥当である	然環境の保	
			С	(0) 市が実施する必要	性が低い					
			А	(2) 目的とする成果が	十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はと	どうか B	(1) 目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・毎年学習会を開催しているが、認知度不足により回数が増加 しない			
			С	(0) 目的とする成果があいが必要である	がってないため大幅な見直し					
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実		(2) 事業効率化·コスト縮減等の改善の余地はない						
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	_{旦を軽} B	(1) 事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	Α	・限られた予算の中で、 れている	保全団体の創意工夫により)整備が行わ	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	С	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に があったか	二効果 A	② 効果があった	効果があった ある程度効果があった		・長い年月を経た巨木は環境保全や生物多様性の		مام برخي د. د.	
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を上で有効に機能したか	В	(1) ある程度効果があ			・長い平月を絵に巨不は環境保証や生物多様性のシンボル的な存在であり、地元小学校の自然学習教材となるなど、市長の 公約実現に向けた取り組みを行っている			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能 か		(0) あまり効果が見られ	れなかった		公本が大沙にに四177に4Xが利益ができまりしている			
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70	点	
(۲,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題 かに何が いこ何が ・知名度向上のために、市役所	「内の関連 部	関連部署や観光協会と連携してPRする必要がある						
	(参考) H24事業評価級 (二次評価)	・自然環境の保護・保存に取り	組む市民団	体等に対する支援のあり	リ方について整理する必要	がある。				

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・環境教育に対する地区内他施設・団体との連携 ・観光資源、健康づくりや心身のリフレッシュの場としての利活用方法のPR

	0	維持・改善	拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)		教育に対する地区内他施言 資源、健康づくりや心身の!	との連携 シュの場としての利活用方	法のPF	3		
	0	維持•改善	拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定
	_	4E14_4V.	1/4/		461.1.	DETT-0/1941	112076 1 776

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものと整合を図りながら、今後の支援のあり方を検討する必要がある。

Julia	310 番枝	399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	担当課			上宝支所 地域振興課	内線 3921		
	会計	1	一般会計	_位 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事		
予	款	3	民生費	位別 置予		В	一般予算の上乗せとして実施されている事業			
算	算 項		社会福祉費	一付算の		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業		
	目	3	老人福祉費	່"		D	その他事業			
	根拠計画		高山市老人福祉計画							
	市長公約		医療・福祉を充実させます 地域住民が互いに支えあう仕組みや、緊急時の支援 備します。	髪を万全にす	るた	め、1	虫居老人、要援護者等への地域福祉体	*制を整		

1 事業の目的・概要(Plan)

ı		誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	9,677					
	目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	明るい長寿社会と豊かな老後を目指す。							
	概要	事業の 実施手法 (手段)	高齢者の生きがいと健康づくり、また高齢社会を支える上で大きな役割のために事務局人件費を助成し、老人クラブを通じて、各種活動の育成		ブに対し、福祉の向上					

2 事業の推移・結果(Do)

の実績	市連合長寿会に対して、事務局人件費を助成

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	連合長寿会会員	***		目標値	10,500	10,000	10,000
	動指	建口技对云云貝	1900	Α	実績値	9,796	9,584	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	93	96	-
	活	連合長寿会単位	· 夬 し カニ ゴ 粉	クラブ	目標値	150	143	139
	動指	建石技对云单位	(名人ソフノ奴	9,00	実績値	143	139	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	95	97	-
	活	連合長寿会加入	4	%	目標値	43	40	40
成	動指	建百技寿云加入	华		実績値	39	38	-
成果	標	算出根拠等	連合長寿会加入者数/65歳以上人		達成率(%)	91	95	-
面					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					m struct			

		事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	420	420	420	
コス		益者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国·	・県支出金・起債等)		162	150	280
面		段財源			258	270	140
	コスト	受益者1件当た	り(円) ((A/B)	501	515	516
	指標	受益者	上宝地区会員数(4月1日現在)	(B)	839	816	814

2 公坛,郭研(Cheek) ※平成24年度の宝结左郭研

	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はと	A (2)	ニーズが高い			高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の関心高く、地域活動にも根付いているが、高齢者のニーズの多様		
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴い二-	- B (1)	ある程度のニーズ	がある	В			
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			により加入率が低下して	ている。	
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない		市は 老人福祉法(第-	+条の三第一項)の規定により、老人クラ	
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	ブなどの老人福祉を増 連携及び調整、地域の	進する目的とする事業を行う者の活動の 実情に応じた体制整備に努めなければ	
			C (0)	市が実施する必要	性が低い		ならないため。		
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況は	うか B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	老人クラブ加入者は、年々減少傾向であるため、長寿会の組 の見直しや活動内容の充実に取り組んでいる。		
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できている。 ・委託化など事業の効率化・省力化に向け		事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	В.	B (1) 事業効率化・コスト総減等がある程度図られている C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		Α	支所地域長寿会事務局の人件費補助として、最小限の経費である。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に多があったか	効果 A (2)	効果があった					
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	iot:	Α	長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこ もり予防が図れた。また、高齢者に多い病気に対する理解を深		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能しか	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		めることができた。		
	合計			/ 10	\rightarrow		100点換算	80 <u></u>	
(Г,	分析・評価で 明らかになった課題 「「A」評価にするために同が 必要なのかを記入)								

(参考) H24事業評価結果 (二次評価)

・市域全体としては、会員数・クラブ数は減少傾向にあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、老人クラブ活動費補助金との一本化については、今後の支援のあり方も含めて検討する必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・本補助金を有効に活用するため、老人クラブにおける活動内容の見直しを進めながら事業継続し、組織の育成と活動の支援を行う。

拡大

維持·改善

・老人クラブ活動費補助金(31336事業)との一本化を図る。

二次評価 企画課·総務課·財政課評価)
正四昧"秘伤昧"别以味計圖/

0 拡大 縮小 廃止の検討 H25完了予定 維持·改善

縮小

廃止の検討

H25完了予定

・市域全体としては、会員数・クラブ数は減少傾向にあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、老人クラブ活動費補助金との一本化に ついては、今後の支援のあり方も含めて検討する必要がある。

THE PERSON	5 業名 番		99	大規模林道環境保全事業	担当課			上宝支所 基盤産業課	内線 3931	
				一般会計	位特		A 合併前から実施されているイベント・行動			
予算				農林水産業費	位置 置	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	いる事業	
				林業費	付算 けの		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業	
	目		1	理偉業総務費	່"	D その他事業				
	根拠討	+画		地域振興計画						
	市長公約			積極的な観光振興策を実施します ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛驒地 者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。 産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 ・特用林産物の振興、森林技術者の確保・育成など、					の関係	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,359
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・上宝支所地域、特に双六地区の活性化と観光客の誘致		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・7月下旬に山吹集落~飛騨市境までの5kmの周景整備(草刈り) ・昨年度通行止めの原因となった崩壊箇所の災害防除工事		

2 事業の推移・結果(Do)

H24の実績	·除雪 ·草刈	L=5km、24時間 L=6.2km

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	i
	活	除雪時間		時間	目標値	14	14		0
	動指標	除当时间		时间	実績値	7	24	-	
		算出根拠等			達成率(%)	50	171	-	
	活動指標	#.007 5		km	目標値	5	5		5
		草刈延長		KIII	実績値	7	6	-	
		算出根拠等			達成率(%)	132	124	-	
	成果指標	観光客の延入込約数		千人	目標値	1,300	1,500		1,500
成				17	実績値	1,220	1,170	-	
果		算出根拠等			達成率(%)	94	78	-	
面	成	土砂崩落等による通行止め日数		В	目標値				0
	果指			1	実績値			-	
	標	算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
			_		目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
				拉拉	見事項				

補足事項	Į
------	---

		(人件費を	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	743	762	5,800
コス		益者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国·	·県支出金·起債等)				
面		段財源			743	762	5,800
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	214	223	1,727
	指標	受益者	上宝支所管内の市民(4	月1日現在(B)	3,474	3,421	3,359

3	分析·評価(C		评価						
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は	Α tどう Α	(2) ニーズが高い			・地区住民には生活道路及び森林作業路として、観光客には 流双六川への導入路として必要な路線である。		
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニ	ズ B	(1) ある程度のニーズ	がある	Α			
		は減少していないか	С	(0) ニーズが低い					
			А	(2) 事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	В	(1) 一部見直しが必要	である	Α	・市が管理する道路であ	あるため、市が実施する必要がある	
			С	(0) 市が実施する必要	性が低い				
			А	(2) 目的とする成果が	十分にあがっている		・積雪量が年度ごとに異なるため、目標値に対する達成率が一		
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はど	έラか Β	(1) 目的とする成果が	ある程度あがっている	В	律とはならない ・安心安全な道路づくりはできているが、誘客のためのPRがイ		
			С	(0) 目的とする成果があが必要である	がってないため大幅な見直し		足している		
		・最小限のコストで事業を実施できているか・委託化など事業の効率化・省力化に向け:		A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はな			・ 草刈りは見通しの悪いカーブの視距確保による交通安全対策		
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	_{旦を軽} B	B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		В		であるため、コスト削減を作業延長の減	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	С	C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか		② 効果があった					
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を上で有効に機能したか	Ь	B (1) ある程度効果があった		Α	・生活・観光道路の確保、林業振興、物流の促進等で効果が上がっている		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能 か	c c	の あまり効果が見ら	れなかった				
		合計	8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80 点	
(۲,	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何か 必要なのかを記入)		めにPRに力	を入れる必要がある					
	(参考) H24事業評価結果 (二次評価)・特例期間終了後の対応を検討する								

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・奥飛騨温泉郷観光協会に対するPR強化の依頼

	0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	·現状 ⁻	で事業を実施する				
	_	AR 44 -L-44	***	deta da	min a second	いたウススウ
	0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定

	二次記	∓./ ∓		
企画課・			課評	価)

・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものとの整合を図って実施する必要がある。

	62	299	新穂高登山者用駐車場管理事業	担当課			上宝支所 基盤産業課	内線	
	事業名		初修商豆山石川駐平荷官連季果	担ヨ牀			工玉又別 基盤性未沫	3931	
	会計 1 一般会計 款 6 商工費		一般会計	位特		Α	合併前から実施されているイベント・ぞ	事	
			位置付 位置付	0	В	一般予算の上乗せとして実施されている			
箅	項	2	観光費	付算	C 終期を定めて実施する事業・単			業	
	目	2	観光施設費	່"		D	その他事業		
	根拠計画		地域振興計画						
	市長公約		積極的な観光振興策を実施します。 ・規光まちづくりを持続可能なものとするため、飛驒地 者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。 ・飛驒高山の自然環境を利用したグリーンツーリズ ズム、自分だけの製品をつくるクラフトツーリズムなと	ムに加え温泉	見や高	5山で	で作られた高品質の食材を使ったヘルス	スツーリ	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,359		
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)					
概要 実施手法 ・登山シーズンにおける登山者用駐車場の交通整理及び警備、仮設トイレ設置、場内清掃業務を委託に (手段)						

2 事業の推移・結果(Do)

H24の実績 ・駐車場の交通整理及び警備 44日50人(4~10) ・仮設トイレの設置及び管理清掃 7~11月	引)
---	----

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	交通整理及び警	进口粉	В	目標値	41	50	61
	動指	文理整理及び言	1		実績値	36	44	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	88	88	-
	成	登山者の対前年比割合		%	目標値	100	105	105
	果指	登山省の対制平	. 正制音	90	実績値	91	124	-
	標	算出根拠等	登山者数は飛騨側登山届提出数		達成率(%)	91	118	-
					目標値			
成					実績値			-
成果		算出根拠等			達成率(%)			-
面					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)		·	-
				拉拉	足車項			

・活動指標の交通整理日数は達成率が低い方が良好

		(人件費	事業費 ・除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出(千円)	(A)	2,033	2,467	3,000
コス		益者負担(使用料	•負担金等)				
+	源 内)他特定財源(国	·県支出金·起債等)				
面		以財源			2,033	2,467	3,000
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	585	721	893
	指標	受益者	上宝支所管内の市民(4月1日	現((B)	3,474	3,421	3,359

Ť	分析·評価(C 評価項目	heck) <u>※平成24年度の実績を語</u> 評価観点			評価基	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は	はどう A	. (2)	ニーズが高い			・登山は早朝の出発が	多いため、公共交通機関の利便 [†]	性が悪	
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い二	Б	(1)	ある程度のニーズ	がある	Α	い飛騨側ではマイカーの利用が多い ・最盛期には早朝に満車となり、代替駐車場への誘導を余儀:			
		は減少していないか	С	(0)	ニーズが低い			くされている			
			А	(2)	事業主体を見直す	余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	В	(1)	一部見直しが必要	である	Α	・市の公園事業として実	『施しているため、見直しの余地は 『できまれる。 	はない	
			С	(0)	市が実施する必要	性が低い					
			А	(2)	目的とする成果が	十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性・・成果指標などの目標値の達成状況はどうか		έラか Β	(1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	・駐車場の収容台数不足によるものを除き、現場での混乱や情はない			
			С		目的とする成果があ: が必要である	がってないため大幅な見直し					
	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実			. (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない						
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	_{旦を軽} B	(1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		В	・登山は天候や曜日の 備日数で調整すること	並びに左右されるため、コスト縮》 は困難である	夷を警	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	С		効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必					
		事業の実施が市の政策、施策の推進に効果 があったか		A ② 効果があった				・受入体制の整備により飛騨側から北アルプスを目指す登山			
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を上で有効に機能したか	В	B (1) ある程度効果があった		った	В	が増加しているが、収容台数不足が路上駐車の増加やイメ- ダウンにつながる恐れがある			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能 か	C	(0)	あまり効果が見られ	れなかった					
		合計	8	,	/ 10	\rightarrow		100点換算	80	点	
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするたと 必要なのかを記	課題 ・新穂高渓流工で減少した市営 ・収容台数の増加が必ずしも路					6 C				
	(参考) H24事業評価 (二次評価)	・特例期間終了後の対応を検討	対する必要な	がある	۰						

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・今年度の入込動向を注視しながら、需要予測を行い実施する

	0	維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・北ア)	ルプス飛騨側山小屋友交会	≩との連	重携を強化し、市有施設以タ	↑の駐車	車場確保を検討する		
	0	維持・改善		拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・特例期間終了後の対応を検討する必要がある。

Pili	事業名 624 番枝		北アルプス飛騨側登山道等維持管理事業	担当課	上宝支所 基盤産業課		上宝支所 基盤産業課	内線 3931	
	会計 1 一般会計					Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予	款	6	商工費	位別 置 予	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	いる事業	
箅	算 項		観光費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業	
	目	3	自然公園費	′′		D	その他事業		
	根拠計画		地域振興計画						
	市長公約			E実施します。 を利用したグリーンツーリズムに加え温泉や高山で作られた高品質の食材を使ったヘルスツー つくるクラフトツーリズムなど、地元の産業と一体となった新たな旅行スタイルを生みだします。					

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	上宝・奥飛騨地域の住民	対象者数	3,359 人							
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・登山道整備による北アルブス登山者の安心・安全確保及び周辺整備									
概要	事業の 実施手法 (手段)	・登山道整備の実施団体である「北アルブス飛騨側登山道等維持連絡協議会」に対し、事業運営費用の一部を 金として支出する									

2 事業の推移・結果(Do)

		H24の実績	- 打合せ 6回 - 登山道整備(6~10月) - 標柱の設置、修繕 2箇所(8~9月) - 危険箇所等現地踏査(7月))					
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	活	協議会との打合せ			目標値	3	3		3
	動指	励磁云との打口	<u>e</u>	ш	実績値	4	6	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	133	200	ı	
	成	登山者の対前年	나회수	%	目標値	100	105		105
	果指	豆山石の利削斗	- , 나 하 ㅁ	70	実績値	91	124	-	
	標	算出根拠等	登山者数は飛騨側登山届提出数		達成率(%)	91	118	ı	
					目標値				
成					実績値			-	
果		算出根拠等			達成率(%)			ı	
面					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			ı	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	

補足事項

		(人件費を	事業費 - 除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	2,000	2,000	2,000
コス		者負担(使用料	負担金等)				
۲	源 内	他特定財源(国·	県支出金·起債等)				
面		財源			2,000	2,000	2,000
	-1/AT-	受益者1件当た	り(円) ((A/B)	576	585	595
	指標	受益者	上宝·奥飛騨地域住民(4月1日現在)	(B)	3,474	3,421	3,359

3	<u>分析・評価(C</u>		評価		=# /# ·	H 244	en in	-T /T ch 7	ウェンコ (記(FO) (日本年)		
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い						
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い は減少していないか	ニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	・近年の中高年層を中心 全確保は重要な課題と	ひとする登山ブームにより、₫ なっている	登山道の安	
		は水少していないが	(C (0)	ニーズが低い						
			,	A (2)	事業主体を見直す	余地はない		・当事業は山小屋が中心となり組織する「北アルプス飛騨側登			
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないが	ρ, E	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	なって北アルプスの環境	ま」が実施しており、市民と行 竞整備を実施することによる オスニンは窓があれる。		
			C	C (0)	市が実施する必要	性が低い		化を図る上で市が参画することは妥当である			
			,	A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況は	どうか E	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	北ア遭対協や観光協会へ登山道に関する苦情等は入っていないため、整備の効果は上がっている			
			C	C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し					
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け		A (2)	(2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない			・山小屋を中心として組織する団体が整備を実施する方法は			
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負	担を軽	B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		滅等がある程度図られている	В	・山小屋を中心として組 請負による整備よりコス		る方法は、	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0) 効率化が図られていないためた 要である		ないため大幅な見直しが必						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進 があったか	に効果	A (2)	効果があった						
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成上で有効に機能したか	- 1	B (1)	ある程度効果があ	った	Α	飛騨側からの登山者数は着実に増加しており、公約の実現に 寄与している			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機 か	能した(C (0)	あまり効果が見ら	れなかった					
		合計	9		/ 10	\rightarrow		100点換算	90	点	
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題・3000m級の山岳地帯の歩道 かに何が・長野県側からの北アルプス							りためには不断の取り組みカ	が重要である	
	(参考) H24事業評価 (二次評価)										

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・協議会や個別の山小屋との連絡を密にし、早期の対応を行う

	0	維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)		で事業を実施する 協会や北アルプス山岳遭業	對策制	就議会とも連絡を密にし、有	効なPI	R方法を検討する		
	0	維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・特例期間終了後の対応を検討する必要がある。

3	業名	721	199	市道未登記用地測量事業	担当課			上宝支所 基盤産業課	内線	
		番枝		17.22.17.22.107.10.207.22.7.77					3942	
	会	#	1	一般会計	位 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予	予 算 項		7	土木費	置型	0	В	一般予算の上乗せとして実施されている事 終期を定めて実施する事業・単年度事業		
算			2	道路橋りょう費	位置付ける		С			
	目		1	道路橋りょう総務費	¹⁾ の		D	その他事業		
	根拠詞	十画								
	市長公約									
	-,- 24 24 1									

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	地元住民(道路敷地権者)	対象者数	1,227	戸						
的	どういう状態 にしたいのか (意図)	未登記路線の整備(旧町村時代に、未登記のまま道路整備した路線の登記整理)									
既要	事業の 実施手法 (手段)	岐阜県公共嘱託登記土地家屋調査士協会へ委託をし、路線ごとに処理	を進めていく								

2 事業の推移・結果(Do)

		H24の実績	市道上地ケ根線、市道一重ケ根25 山2号線、市道長倉1号線、市道中山					
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	未登記解消(業)	50g 20x 2 + 00g 6白 米+ \	本	目標値	10	10	10
	動指	不登記胜用(未		4	実績値	7	10	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	70	100	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
成					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
面					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
			•		目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

			(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
				歳出 (千円)	(A)	16,264	16,626	20,000
コス		受益	者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源内	その	他特定財源(国·	·県支出金・起債等)				
面		一般	財源			16,264	16,626	20,000
	コス			(A/B)	4,590	4,840	5,954	
	指標	票	受益者	上宝地域の住民	(B)	3,543	3,435	3,359

3		heck) ※平成24年度の実績を評	価							
	評価項目	評価観点		評価。	基準	評価	評価内容	宮の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はど	A (2)	ニーズが高い			事業事権に ヒロ 土地部	ff有者において、資産管理や土地取引		
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニー	-ズ B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α		状の宅地等の土地部分のみが課税対		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			STORY DESCRIPTION AND STORY			
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	市道の管理上、道路管	理者として行うべき事業であるため。		
			C (0)	市が実施する必要	性が低い					
			A (2)	(2) 目的とする成果が十分にあがっている						
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどう	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	測量・分筆後、地目変更及び所有権移転は全体としては着身 進んでいるものの、個人の資産に関わる問題であるため、処 が困難な場合もある。			
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し					
	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実			事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない						
4	執行方法 の効率性	法 施手法に改善の余地はないか		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		В	専門部署で一括処理対	応する等、効率化を図る必要がある。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に対があったか	効果 A (2)	A (2) 効果があった			道路工事等を行う際に、所有関係が明確となるので、スムー			
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成をB 上で有効に機能したか	D (1)	B (1) ある程度効果があった		Α	に工事実施できる等、市道の管理業務が明確化・省力化される。			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能し か	.t= C (0)	あまり効果が見られ	れなかった		固定資産税を適正に徴収することができるようになる。			
		合計	8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80 点		
(۲)	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題 めに何が 過去の経緯が不明のため、道路	路用地の寄付の	のお願いだけではな	かなか理解していただけな	い部分な	があり、処理が進まないと	ころがある。		
	(参考) H24事業評価約 (二次評価)		登記処理を完	了できるよう積極的	に取り組んでいく必要があ	వ .				

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

地元町内会及び地元住民等から過去の経緯を聞き取り、事前打ち合わせや資料を探していただき再度現地立会いを実施して処理を進めている。

	0	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	地元	町内会の協力を得ながら順		色しているところではあるが	、地籍	調査を併用することにより頭	更なる事	事業の推進を図る 。		
	_	T	_			T	_	1	_	

		445.14	40	•	may.		481.1.	262019611	1120,611,2
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	•平成:	26年度までに	Ξ重要路線の∌	卡登記处	ル理を完了できるよう積極的	りに取り	別組んでいく必要がある。		

事	業名	4799 ŧ	湯の花街道環境整備保全事業	担当課			上宝支所 基盤産業課	内線 3941	
	会計	1	一般会計	_位 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予	款	7	土木費	位 世 別 予	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	る事業	
算	算 項		都市計画費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	7	快適環境整備費	′′		D	その他事業		
	根拠計画								
ī	市長公約		合併後の周辺自然環境や地域特有の伝統文化など	多様な観光	資源	<u>-</u> دل	て積極的に活用します。		

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	国道471号通過車両	対象者数	特定出来ず
B BY	こういう水池	湯の花街道の景観美化を図る。		
根要		湯の花街道の草刈及び花等の補植、清掃業務委託		

2 事業の<u>推移・結果(Do)</u>

湯の花街道(国道471号)沿いのポケットパークなどの草刈、樹木の剪定、花壇の花の植樹や草取り、樹木の雪囲い の設置撤去

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	草刈、補植及び	樹木剪定等の維持管理対象道路	km	目標値	30	30	30
	活動指	延長		KIII	実績値	30	30	-
	標	算出根拠等	国道471号道路延長L=30km	•	達成率(%)	100	100	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		•	達成率(%)			-
					目標値			
成					実績値			-
成果		算出根拠等			達成率(%)			-
面					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		•	達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-

			(人件費を	事業費 除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
				歳出 (千円)	(A)	1,413	1,413	1,500
コス		受益	者負担(使用料・	負担金等)				
۲	源内	「その他特定財源(国・県支出金・記信等)						
面	訳	一般財源				1,413	1,413	1,500
	ت =	^ I"	受益者1件当たり	り(円)	(A/B)			
	指	標	受益者		(B)			

3	分析·評価(C		平価				1		
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はと	とう A (2)	ニーズが高い			温の井供(P471)(+15	製飛騨温泉郷への観光客や飛 馴	ᄩᇔᆡᇄᆄᄼᆇᅆ
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い二-	-ズ B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	山客の主要幹線道路で	これ呼温水畑への観光者で飛り こあり道路からの景観美、また、 用され重要な事業である。	
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			,	///C10=3/07 x C000	
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない		******	- Mb - 2 - 1 - 1 - 1	
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	В		「業主体として維持整備する。 R全活動をしているNPO法人と	品力し合
			C (0)	市が実施する必要	性が低い		V-1247-08		
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		78 0 ##* W 0 B 19 *	18/D to 10 10 - 7	
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はど	うか B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	東日本大震災以来の	・湯の花街道の景観美が保たれている。 ・東日本大震災以来の観光客の落ち込みから少しでも観点による。	
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		が戻りつつあることに貢献している。		
		・最小限のコストで事業を実施できているが ・委託化など事業の効率化・省力化に向け		事業効率化・コスト	宿減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	Α	花の支給等により出来 る。	る限り広範囲での実施に取り組	んでい
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に対があったか	効果 A (2)	効果があった		評価			
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	った	対象			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能しか か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった	外			
		合計	6	/ 8	\rightarrow		100点換算 75		点
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	<mark>果題</mark> Ыこ何が 地域の自治会や環境保全活動を	をしているNPC	法人と協力し合い有	_ 効な事業の執行をはかる。				

H24事業評価結果 (二次評価)

・県が管理する道路施設の修景については、道路管理者に安全確保の観点から事業実施を要望する必要がある。・花の補植等については、他の類似事業と合わせ全市的な検証を行う必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

地域の自治会や環境保全活動をしているNPO法人と協力し合い全路線において湯の花街道の更なる景観美が保たれるようにする。

	0	維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	観光客	が減少している中、最小限	見の環境	き整備を実施し景観美を後	世に引	き継ぐ。		

縮小

H25完了予定

廃止の検討

(企画課・総務課・財政課評価)

・ 果が管理する道路施設の修景については、道路管理者に安全確保の観点から事業実施を要望する必要がある。 ・ 花の補植等については、他の類似事業と合わせ全市的な検証を行う必要がある。

拡大

維持·改善

事	業名 番柱	1499	中学校部活動生徒送迎事業	担当課			上宝支所 地域振興課	内線 3913	
	会計	1	一般会計	位特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予			教育費	置为	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	いる事業	
算	項	1	教育総務費	位置付ける		С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	3	スクールバス管理費	′′		D	その他事業		
	根拠計画								
ī	市長公約								

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	北稜中学校生徒	対象者数	101	人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	北稜中学校の土曜日における部活動にスクールバスを運行し、遠距離	通学生徒に対する参 加	ロ機会の均衡を図る	١.
概要	事業の 実施手法 (手段)	土曜日の部活における送迎 ・通年(長期休業期間を除く全土曜日)実施 ・路線(中尾線・平湯線) ・経費(賃金、燃料)			

2 事業の推移・結果(Do)

H24の実績	延べ利用生徒数 N=1,170人				
	指標名	単位	目標·実績	H23	H2
活動運行回数		П	目標値	42	

			指標名	単位	日標 美額	H23	H24	H25
	活	運行回数		0	目標値	42	42	43
	動指	進1] 四数		ш	実績値	42	39	-
	標	算出根拠等	スクールバスの運行回数		達成率(%)	100	93	-
	成	延べ利用生徒数	t	人	目標値	1,806	1,800	1,376
	果指	严、利用工证 数	X	_ ^	実績値	1,806	1,170	-
	標	算出根拠等	バス運行回数×1回の利用人数		達成率(%)	100	65	-
					目標値			
成					実績値			-
成果一		算出根拠等			達成率(%)			-
面					目標値			
					実績値	直		-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-

			(人件費を	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
				歳出 (千円)	(A)	499	523	580
7		才 受益	者負担(使用料	•負担金等)				
ŕ	源内	その	他特定財源(国・	·県支出金·起債等)				
面	i					499	523	580
	=	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	4,990	5,876	5,743
	1	指標	受益者	北稜中学校生徒数	(B)	100	89	101

3	分析・評価(C		西				1					
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)				
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はど	A (2)	ニーズが高い								
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニー は減少していないか	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α		に富んだ地形であり、かつ全域に住家だ fの確保が強く求められている。				
		は減少していないが	C (0)	ニーズが低い								
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない		フカール パフトローの"	運行経路であり、かつ休日等で遊休車 両				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	となっているスクールバ	異行程的であり、かつ休日寺で避休単川 『スを活用しているため、スクールバス運 体となることが最も効率的である。				
			C (0)	市が実施する必要	性が低い							
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている							
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどう	b В (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	居住地域に関係なく、全生徒が等しく部活動に参加するこでき、心身ともに健全な学校生活を送ることができる。					
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し							
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け		事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない		部注動でもるが内っ ご	運行予定や乗車人数がほぼ固定されて				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を	軽 B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	Α		単行予定や乗車人数かはは固定され の運行形態、運行コストで、十分な効!				
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必							
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に対があったか	71 (2)	効果があった								
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能し	B (1)	ある程度効果があ	った	Α	遠隔地を抱える地域の に努める必要性からもた	特性であり、均衡ある教育環境の整備 大いに効果があった。				
		・市長公利の美現を図る上で有効に機能しか	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった							
		合計	10	/ 10	\rightarrow		100点換算	100 🛦				
(Г/	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	<mark>果題</mark> 現状維持が適切である。										
	(参考) H24事業評価約 (二次評価)	・公共交通での対応も視野に入れ	ながら、スクー	ールバス利用につい	へての考え方を調整する必要	要がある。						

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

(企画課・

現状を維持している。

	0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	現状維	持				

H25完了予定

	0	維持·改善	拡大		縮小		廃止の検討
二次評価 ·総務課·財政課評価)	7.5	u .* = 1.0 > = ./ + . **	 *************	^+·	₩	£+ 7	

・スクールバスとのらマイカー等の公共交通の効率的な運行を含め、全市的に対応を検討する必要がある。

事	94 番枝	199	花いっぱい運動推進事業 (花苗購入)	担当課			上宝支所 地域振興課	内線 3913
	会計	1	一般会計	特 位別		Α	合併前から実施されているイベント・イ	事
予			教育費		0	В	一般予算の上乗せとして実施されてし	いる事業
算	項	4	社会教育費	一付けの		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業
	目	1	社会教育総務費	່"		D	その他事業	
	根拠計画		地域振興計画					
i	市長公約		個人・家庭・地域を大切にする社会を築きます ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる 予算枠を確保します。	地域を築くた	:め、	地域	の自立的なコミュニティ活動や環境整位	備事業の

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	上宝支所管内市民	対象者数	3,359	人				
目的		町内会や施設に対し花苗を配布し、地域や道路沿いの花壇での植栽管 飾り市民憲章の具現化を図る	理を実施してもらうこ。	・ とで、地域全体を花・	で				
概要	事業の 実施手法 (手段)	町内会等に配布する花苗の購入(春秋2回6種類)	写に配布する花苗の購入(春秋2回6種類)						

2 事業の推移・結果(Do)

24の実績	花苗植栽参加団体数	延べ54団体	(春・秋)

Ī			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	花苗注文数		個	目標値	50,000	50,000	50,000
	動指	化田注义数		10	実績値	55,000	61,000	-
	標	算出根拠等	各町内会からの要望数		達成率(%)	110	122	-
	肾	花苗植栽参加団	3 体	件	目標値	21		
	指標	10日1世秋岁加口	174	"	実績値	21		-
_		算出根拠等	町内会等参加団体数		達成率(%)	100		-
	成果指	花苗植栽参加団体		件	目標値		42	60
		10日1世秋岁加口	194	"	実績値		54	-
果面	標	算出根拠等	町内会等参加団体数(延べ)		達成率(%)		129	-
Ш					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)		·	-	

		(人件費を	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	2,370	2,375	2,000
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
面		-般財源			2,370	2,375	2,000
	コスト	受益者1件当たり(円) (A/B)			682	694	595
	指標	受益者	上宝支所管内市民	(B)	3,474	3,421	3,359

2 公析·訶価(Cheek) ※平成24年度の実績な評価

	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
Ţ	•	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い			花苗の注文数が増加値	夏向であることは、地域住民による環境:	
	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	化の意識向上による市	民ニーズの高まりの表れである。新たな 町内があることから、地域が積極的に	
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			運動に取り組んでいる。	と考えられる。	
Ī			A (2)	事業主体を見直す	余地はない		花いっぱい運動は市民憲章の精神に基づき展開しているた 市が花苗を提供し地域が維持管理する、市と地域が一体と た環境美化の推進は、市の事業として極めて妥当である。		
	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	! である	Α			
			C (0)	市が実施する必要	性が低い				
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		多くの町内や施設等の団体が当事業に参加し、各団体に所員 する市民が共同作業で維持管理し、地域全体で参加している とから、目的は十分に達成している。		
	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α			
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
Ī		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない		年2回、町内会等の各団体からの花苗希望を取りまとめたうえで大量に購入するため、花苗の単価は非常に安価であり、且		
	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	Α	で大重に購入するため、化角の単価は非常に安価でる植付及び維持管理は地域市民による共同作業による市のコスト負担はないため、最小限のコストで事業実施		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必		同のコスト員担はないため、販小阪のコストで争未失能している。 る。		
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった					
	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	った	Α		一体となり、積極的に当事業に取り組ん 化、コミュニティ醸成とも十分な効果が	
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		ماد ده		
Ť		合計	10	/ 10	\rightarrow		100点換算	100 点	

(参考) H24事業評価結果 (二次評価)

・「花いっぱい運動」については、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)との整理が必要である。・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

現状を維持している。

0

維持·改善

	0	維持•改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	現状維	挂持				

拡大

二次評価	
企画課・総務課・財政	(眯評価)

縮小

廃止の検討

H25完了予定

・「花いっぱい運動」については、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)との整理が必要である。・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。

3	事業名 94 ^{番枝}		99	花いっぱい運動推進事業	担当課			上宝支所 地域振興課	内線		
7			2	(葛山花壇撤去)	12 - 104				3913		
	会計		1	一般会計	始 位 別		A 合併前から実施されているイベント・行				
予	款	Ĩ	9	教育費	直。		В	一般予算の上乗せとして実施されてい	いる事業		
算	算 項		4	社会教育費	付算	0	С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業		
	目		1	社会教育総務費	′′		D	その他事業			
	根拠詞	計画		地域振興計画							
	市長公約		4	個人・家庭・地域を大切にする社会を築きます ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる 予算枠を確保します。	地域を築くた	±め、	地域	の自立的なコミュニティ活動や環境整化	備事業の		

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	上宝支所管内市民	対象者数	3,359	人						
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	地元住民で管理できないため、市が業者へ業務委託して管理を続けてきた国道沿いの大きな花壇 4年度をもって市による管理事業を廃止する。									
概要	事業の 実施手法 (手段)	管理業務委託事業を廃止することに伴い、撤去する。									

2 事業の推移・結果(Do)

H24の実績	・H25年度新規事業

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	活	撤去花壇面積		mî	目標値	0	0	60	0
	動指	拟五16垣田恨		111	実績値	0	0	-	
	標	算出根拠等	面積 巾1m×長さ600m)0m				1	
	成田	物土に上川統浦・	される花壇維持管理事業費	千円	目標値	933	933		0
	果指標		これの10垣種村日生学未見	111	実績値	0	0	-	
		算出根拠等	花壇管理業務委託料		達成率(%)	0	0	1	
	成果指標	撤去工事費	*	千円	目標値			1,20	0
成		拟 五二争员		111	実績値			-	
成果面		算出根拠等	撤去工事費		達成率(%)			-	
面					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			1	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値			•	
					実績値			1	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
				補	足事項				

			(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額	
				歳出 (千円)	(A)	933	933	1,200	
コス		受益	者負担(使用料	•負担金等)					
۲	源内	その他特定財油(国・里支出会・起信等)							
面	訳					933	933	1,200	
		×1.	受益者1件当たり(円) (A/B)			269	273	357	
	指	標	受益者	上宝支所管内市民	(B)	3,474	3,421	3,359	

3	分析・評価(C	heck)	※平	成24年度の実績を	評価									
	評価項目			評価観点			評価	基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
	+0		施に対す	トる市民ニーズの傾向!	まどう	A (2)	ニーズが高い			評価				
1	市民ニーズの確認	か ・社会情 は減少し		となど時の経過に伴い:	ニーズ	B (1)	ある程度のニース	ぶがある		対象	H25新規事業			
		は減少し	Curau			C (0)	ニーズが低い			外				
						A (2)	事業主体を見直す	ナ余地はない		評価				
2	市が実施する 必要性			であることは妥当か 舌動と競合していないか	N.	B (1)	一部見直しが必要	更である		対象	H25新規事業			
						C (0)	市が実施する必要	要性が低い		外				
						A (2)	目的とする成果が	十分にあがって	ている	評				
3	活動内容の 有効性			があがっているか 日標値の達成状況は	どうか	B (1)	目的とする成果が	がある程度あがっ	っている	価 対 象	H25新規事業			
					•	C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないためえ	大幅な見直し	外				
				で事業を実施できている		A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の	余地はない	評				
4	執行方法 の効率性	施手法に	改善の	余地はないか D活用など市の財政負		B (1)	事業効率化・コスト新	演等がある程度	図られている	価対	H25新規事業			
		減する余 ・受益者:	地はない	いか		C (0)	効率化が図られてい 要である	いないため大幅な	見直しが必	象 外				
		・事業の	実施が引	方の政策、施策の推進I	に効果	A (2)	効果があった			評				
⑤	政策面における効果	があった ・総合計 上で有効	画及び主	上要計画等の目標達成 したか	を図る	B (1)	ある程度効果があ	らった		価対	H25新規事業			
	8317 WX			見を図る上で有効に機能	能した	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		象 外				
		合語	it				/		\rightarrow	<u>l</u>	100点換算	評価	対象外	点
(ГД	明らかになった。 A」評価にするたる 必要なのかを記 (参考) H24事業評価 (二次評価)	かに何が 合入)												
4	今後の方向性((Action)												
	課題等に対す 今年度の対応*													
				維持•改善			拡大		縮小		廃止の検	計 O	H25完了	 予定
	次年度の 実施方針 (担当課評価))			ı	1		•		1	'	И		
				維持·改善			拡大		縮小		廃止の検	h O	H25完了	 予定
(企	二次評価 E画課·総務課·財政					ı								

事	第名	699	地域文化芸能助成事業	担当課		上宝支所 地域振興課 :			
	会計 1 一般会計					Α	合併前から実施されているイベント・行	i事	
予	in an			位別 置予	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	いる事業	
箅	項 4 社会教育費		付算ける		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業		
	目	6	文化振興費	′′	1′の D その他事業				
	根拠計画		地域振興計画						
1	市長公約	伝統文化を守り、次代へ継承します。 芸術文化の振興を積極的に支えます ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがい さらに浸透させ、広げていくために、芸術文化の保存 確保します。							

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	上宝支所管内市民	対象者数	3,359	人		
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)						
概要	事業の 実施手法 (手段)	<mark>実施手法</mark> たから社会教育運営委員会が開催する文化祭(作品展、芸能発表)に対する補助金の交付					

2 事業の推移・結果(Do)

たから文化祭 延入場者数N=1380人 最大入場者数N=380人

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	<i>作</i> □屋. ## 此及:	表 出演、出展者数	ı	目標値	100	100	100
	動指	TF加质 云能光	改 田澳、田族有数	人	実績値	150	150	-
	標	算出根拠等	作品展・芸能発表に出展・出演者の	数	達成率(%)	150	150	ı
	成	作只屈, 兰能杂	表 矿 λ 提 考 物	人	目標値	1,300	1,300	1,300
	果指	作品展·芸能発表 延入場者数		^	実績値	1,380	1,380	1
	標	算出根拠等	出根拠等 芸能発表・作品展会場への来場者		達成率(%)	106	106	-
					目標値			
成果					実績値			=
果面		算出根拠等			達成率(%)			-
囬					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-

		(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出(千円)	(A)	250	250	250
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内	他特定財源(国·	·県支出金・起債等)				
面		財源			250	250	250
	-1/VI:	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	72	73	74
	指標	受益者	上宝支所管内市民	(B)	3,474	3,421	3,359

3	分析·評価(C	heck) ※平成24年度の実績を評	评価						
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は	tどう A	A (2)	ニーズが高い				
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニ	ズ E	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В		:する場として、また、地域住民相互が触 迷続に対し市民の根強い要望がある。
		は減少していないか	C	C (0)	ニーズが低い				
			A	A (2)	事業主体を見直す	余地はない			化の創造と振興を図る」を具現化するた
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	Е	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	ら社会教育運営委員会	行うことは妥当である。事業主体はたか であり、当地域唯一の文化振興の行事 地域住民による団体であることから、事業
			C	C (0)	市が実施する必要	性が低い		主体として妥当である。	
			A	A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はど	έラか Ε	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α		団体ともに計画的に準備し開催されてお :振興、コミュニティ醸成に寄与している。
			C	C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し			
		・最小限のコストで事業を実施できている ・委託化など事業の効率化・省力化に向け		A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない			
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	_{旦を軽} E	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	Α	実施団体に所属する市 小限の経費のみで事業	民の出役により運営されており、必要最 実施されている。
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必			
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に があったか	効果	A (2)	効果があった				
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を上で有効に機能したか	-	B (1)	ある程度効果があ	った	Α	文化活動の場の提供や 境の醸成に寄与してい	文化にふれる機会の充実など文化的環 る。
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能 か	(C (0)	あまり効果が見ら	れなかった			
		合計	9		/ 10	\rightarrow		100点換算	90 点
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題 かに何が 地域全体のニーズのさらなる高	まりに繋り	げるたの	め、広く参加者の増	加を図る必要がある。			
	(参考) H24事業評価編 (二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全 ・文化芸術鑑賞事業との関係の							

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

参加者増に向け内容を精査するよう事業実施団体へ指導する。

	0	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	継続す	⁻ō.				

	維持·改善	拡大	0	稲小	廃止の検討	H25完了予定
		ンスを考慮し、縮小(廃止) 績や効果の検証を行う必§				

事	946 番枝	699	地域文化振興事業	担当課			上宝支所 地域振興課	内線 3913	
	会計	1	一般会計	_位 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予	款	9	教育費	位 世 別 予	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	いる事業	
算	項	4	社会教育費	付算ける		С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	6	文化振興費	′′		D	その他事業		
	根拠計画		地域振興計画						
	市長公約	伝統文化を守り、次代へ継承します。 芸術文化の振興を積極的に支えます ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがい さらに浸透させ、広げていくために、芸術文化の保存 確保します。							

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	上宝支所管内市民	対象者数	3,359 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	優れた芸能文化にふれる機会の充実を図る。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	地域が主体となって取り組む文化振興事業に対する助成金		

2 事業の推移・結果(Do)

H24の実績 前宮崎県知事 東国原英夫 文化講演会 入場者数N=330人

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活		1日 示 - 口	+14	目標値	1.500	1,500	1,200
	動	広報チラシの枚	数	枚	実績値	1,500	1,200	-
	指標	算出根拠等	イベント開催用チラシ印刷枚数		達成率(%)	100	80	-
	成果指		and a section	J	目標値	500	330	330
		会場の容量に応	場の容量に応じた入場者数		実績値	205	330	-
	標	算出根拠等	講演会等に市民が参加した人数		達成率(%)	41	100	-
					目標値			
成果					実績値			-
果面		算出根拠等			達成率(%)			-
囲					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		1	達成率(%)			-
					目標値			
		Art of the Arts			実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-

		(人件費	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	1,300	1,300	1,300
コス		者負担(使用料	·負担金等)				
F	源 内	他特定財源(国	·県支出金・起債等)				
面		財源			1,300	1,300	1,300
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	6,341	3,939	3,939
	指標	受益者	講演会等参加者数	(B)	205	330	330

	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)			
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向に	まどう	A (2)	ニーズが高い							
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いる		B (1)	ある程度のニーズ	がある	В		5り、地域住民相互のふれあい。 「観賞したいと思う優れた文化」 ニレけ必要である			
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い			10分版会の元天と囚る	ことは必要である。			
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない			化の創造と振興を図る」を具み			
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	`	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	ら社会教育運営委員会	りに、市が財政支援を行うことは妥当である。事業主体 ・社会教育運営委員会であり、当地域唯一の文化振男 ウイベントを実施する地域住民による団体であることか			
				C (0)	市が実施する必要	性が低い		主体として妥当である。		, 5, 4 ₃		
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている			け、地域のニーズを反映させが			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況は	どうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	たところ、H24年度は大幅に参加者が増加し、会場の都合 員を設けた結果、入場者数330名となったが、それを上回る 講希望者があったことから、質の高い多彩な文化に、より3				
				C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		地域住民が触れる機会		57 <i>5</i> 10.		
		・最小限のコストで事業を実施できてい。 ・委託化など事業の効率化・省力化に向		A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない		+ + - 11				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負	担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	Α		「民の出役により運営されており ることから、必要最小限の経費			
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か		C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必		***************************************				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進し があったか	こ効果	A (2)	効果があった							
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成 上で有効に機能したか		B (1)	ある程度効果があ	iots	Α	文化活動の場の提供や 境の醸成に寄与してい	ウ文化にふれる機会の充実なと る。	文化的理		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能か	能した	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった						
		合計	9	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90	点		
(ГД	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	<mark>果題</mark> けに何が 限られた予算で、多くの市民か	が実際に	会場へ足	を運びたいと思うよ	ごうな、興味を引く内容を企じ	画する必∮	要がある。				
	(参考) H24事業評価結果 (二次評価) ・特例期間終了を見据え、市全体のパランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。 ・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。											

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

参加者増に向け内容を精査するよう事業実施団体へ指導する。

次年度の実施方針(担当課評価) 継続する。		0		維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	実施方針	継続す	たる 。					

	稚芳•収香	拡大	0	和小	廃止の検討	H25完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	期間終了を見据え、市全体 芸術鑑賞事業との関係の					

事	94 番枝	799	文化財標柱設置事業	担当課			上宝支所 地域振興課	内線 3913
	会計	1	一般会計	位特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事
予	款	9	教育費	位置付ける	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	いる事業
算	項	4	社会教育費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業
	目	7	文化財費	່"		D	その他事業	
	根拠計画		地域振興計画					
ī	市長公約							

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	全市民	対象者数	92.097	٨
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・文化財標柱の設置により、市民に対する文化財の周知を行い、文化財・上宝ふるさと歴史館において特別展を開催することにより、郷土の文化	に対する理解と保護	意識の高揚を図る。	
概要	事業の 実施手法 (手段)	・文化財家内標柱と看板の製作委託 ・ふるさと歴史館での特別展			

2 事業の推移・結果(Do)

		H24の実績	文化財標柱設置 N=3 ふるさと歴史館特別展(播隆上人写	真パネル	展) 66日間			
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活動	立ル 財安内委権	記置に伴う検討会開催回数	会	目標値	18	18	1
	期 指	人 心别未內有包	X 放画に作り検討 云州唯画教	—	実績値	18	10	-
	標	算出根拠等	本庁・土地所有者・業者との打合せ	検討回数	達成率(%)	100	56	1
	成田	文化財案内標料) 手振动器数	個	目標値	5	5	
	果指	人心别朱内保 位	工、有似故巨女		実績値	5	3	-
	標	算出根拠等	文化財案内標柱・看板設置した数		達成率(%)	100	60	1
					目標値			
成					実績値			-
果		算出根拠等			達成率(%)			1
面					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			1
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
			•		目標値			•
					実績値			1
		算出根拠等			達成率(%)			1
				補	足事項			

		(人件費	事業費 を除き繰越・補正を含む)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出(千円)	(A)	911	927	1,000
コス		益者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源内	の他特定財源(国	・県支出金・起債等)				
面					911	927	1,000
	コスト				10	10	11
	指標	受益者	全市民	(B)	93,312	92,861	92,097

	評価項目	評価観点			評価。	基準		評価	評価内容	図の説明(評価)	の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向	かまどう	A (2)	ニーズが高い							
1)	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴ん		B (1)	ある程度のニーズ	がある		В	貴重な文化財を守り続け めに必要であり、ニーズ	ナるために、また がある	た、広く住民に周	知する
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い							
				A (2)	事業主体を見直す	余地は	:ない					
2)	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していない	か	B (1)	一部見直しが必要	である		Α	文化財の説明看板は高 ており、市が中心となっ			うたわれ
				C (0)	市が実施する必要	性が但	il					
				A (2)	目的とする成果が十分にあがっている							
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況!	まどうか	B (1)	目的とする成果が	目的とする成果がある程度あがっている			計画的に標柱・看板を設置している。計画中の文化財 損傷しているものもあり、内容を精査しつつ整備を進む			
				C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってな	いため大幅な見直し					
		・最小限のコストで事業を実施できてし ・委託化など事業の効率化・省力化に		A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない							
4)	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政	負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等があ	5る程度図られている	В	石柱と同等以上の耐久 ぱコスト縮減に繋がる	性、加工性もち	、かつ安価な材料	枓があれ
	減する余地はないか ・受益者負担は適正か				効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である							
	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果 があったか			A (2)	効果があった							
5	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達上で有効に機能したか		B (1)	ある程度効果があ	った		В	計画的に標柱・看板を設置し、整備を進めている。			
		・市長公約の実現を図る上で有効に根 か	変形し/こ	C (0)	あまり効果が見られ	れなかっ	ot:					
		合計		6	/ 10		\rightarrow		100点換算		60	点
(F)	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題 かに何が 設置により盗難被害を誘発	する文化駅	を除き、	H26の整備完了をE	目指し事	業継続する。					
	(参考) H24事業評価結果 (二次評価) ・設置計画に基づき平成26年度までに完了するよう計画的に設置を進める必要がある。											
1	今後の方向性(Action)										
	課題等に対す 今年度の対応も											

	0	維持•改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	継続す					

	0	据以. 		加入		細い	廃止の役割	H20元17足
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	·設置	計画に基づき平成26年度ま	きでに完	;了するよう計画的に設置を	を進める	必要がある。		

事	業名 書	5199	地域スポーツ振興事業	担当課			上宝支所 地域振興課	内線 3913
	会計	1	一般会計	_位 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事
予	款	9	教育費	置景	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	いる事業
算	項	5	保健体育費	位置付けの		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業
	目	1	体育総務費	" o		D	その他事業	
	根拠計画	i	地域振興計画					
ī	市長公約							

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	上宝支所管内市民	対象者数	3,359	人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	上宝町・奥飛騨温泉郷の両町民を対象として、スポーツ交流事業を実施る。	することにより、地域	の連携と活性化を図	3
概要	事業の 実施手法 (手段)	地域スポーツ大会、スポーツ交流イベントの開催(主催 たから社会教育	育運営委員会)の補助	金	

2 事業の推移・結果(Do)

算出根拠等

		H24の実績	・スポーツ大会及び交流イベント 開 ・参加者総数 532人	僧回数	80				
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	活	スポーツ大会等	の会加老	人	目標値	400	420		420
	動指	ヘルーノ人云寺	07参加名	<	実績値	398	532	-	
	標	算出根拠等	スポーツ競技に参加の数		達成率(%)	100	127	-	
	成	参加者增加率		%	目標値	105	105		105
	果指	学 加加加州			実績値	100	134	-	
	標	算出根拠等	前年比		達成率(%)	95	128	-	
					目標値				
成					実績値			-	
成果工		算出根拠等			達成率(%)			-	
面					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			ı	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
			_		目標値				
					実績値			-	

		(人件費	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	450	450	450
コス		益者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 その	の他特定財源(国	·県支出金·起債等)				
面		投財源			450	450	450
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	130	132	134
	指標	受益者	上宝支所管内市民	(B)	3,474	3,421	3,359

達成率(%) 補足事項

	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はど	A (2)	ニーズが高い						
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニー	В «	ある程度のニーズ	がある	Α	ならず、大会や交流会	貫病の予防などの心身の健康保持の。 を通じた地域住民の世代を超えた交流 高齢者まで様々な層の参加がある。		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			い物として、するもから同断自まで様々な層の参加がある。			
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない		7次総目標「誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことのできる			
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	当である。事業主体は、	するために市が財政支援することは妥 、たから社会教育運営委員会(体育部 スポーツ行事やイベントを実施する地域		
			C (0)	市が実施する必要	性が低い			ことから、事業主体として妥当である。		
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		4/0#/B464+01 h-	ナいっぷっいノベントしたフトミラオー		
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうが	b (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	多くの世代が参加しやすいスポーツイベントとなるよう計画。 ているため、上宝町及び奥飛騨温泉郷地域両方から様々な 代の参加があり、地域間連携に寄与している。			
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し					
_	・最小限のコストで事業を実施できて ・委託化など事業の効率化・省カ化			A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余						
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を	軽 B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	Α	実施団体に所属する市 小限の経費のみで事業	「民の出役により運営されており、必要 実実施されている。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効 があったか	果 A (2)	効果があった						
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図 上で有効に機能したか	B (1)	B (1) ある程度効果があった		А	誰もが生涯を通じてスポーツに親しむ環境づくり(7次総)に得 与している。			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった					
		合計	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90 点		
(ГД	分析・評価で 明らかになった課題 (TA」評価にするために何か 必要なのかを記入) 様々な世代、職種の市民がより多く参加できるよう、開催の場所、時期、内容の工夫は必要である。									
	(参考) H24事業評価級 (二次評価)									

課題等に対する 今年度の対応状況

参加者増に向け内容を精査するよう事業実施団体へ指導する。

	0	維持·改善	拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	継続す	-ేం.					
		維持·改善	拡大	0	縮小	廃止の検討	H25完了予定

		12.5 4.2)	•	20= 11 D121	
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	•特例:	期間終了を見据え、市全体	:のバラ	ンスを考慮し、縮小(廃止)	を検討	する必要がある。		

事	事業名 20999		- 集落支援員設置事業	担当課			上宝支所 地域振興課	内線 3914	
	会計		一般会計	位特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予算	款	2	総務費	位置 位置 予		В	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
算	項	1	総務管理費	一付算の	0	С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業	
	目	9	企画費	່"		D	その他事業		
	根拠計画		地域振興計画						
ī	市長公約								

1 事業の目的・概要(Plan)

ı		誰を(対象)	限界集落住民	対象者数	230 人
	目的	にしたいのか	関界集落における支援活動を通じ、人口の減少・高齢化により低下しつ 図る。また、集落にとっては、集落支援員として他地域の若者を受け入れ 掘・見直し等を通じた地域活性化を図る。		
	角落	事業の 実施手法 (手段)	農山村地域への研修派遣事業を実施しているNPO法人からの研修生を が困難となっている地域行事、農作業などに参加・協力することで、地域		

2 事業の推移・結果(Do)

	限界集落(上宝町金木戸、長倉、鼠餅、大谷、葛山、岩井戸、奥飛騨温泉郷柏当地区)を巡回し、集落行事や共同作
H24の実績	業等に参加。(延べ訪問回数253回)。
	毎日1回の活動却生のほか、1日に実体却生みも明成

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	活	派遣集落集数		集落	目標値	5	7		7
	動指	派追来洛来奴		未治	実績値	4	7	-	
	標	算出根拠等	支援活動を行う集落数		達成率(%)	80	100	-	
	活	集落住民満足度	:	,	目標値	68			
	動指	未洛江氏洞足及	•	_ ^	実績値	68		-	
	標	算出根拠等	集落住民に聞き取り調査		達成率(%)	100		-	
	活動指	集落巡回回数			目標値		220		230
成		未存述自己数		1	実績値	218	253	-	
果	標	算出根拠等	集落へ訪問した延べ回数		達成率(%)		115	-	
面					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
				補	足事項				

		(人件費を	除き繰越・補正を含む	tr)	決算額	決算額	予算額
			歳出 (千円)	(A)	2,100	1,950	2,230
コス		在 者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国·	·県支出金·起債等)				
面		段財源			2,100	1,950	2,230
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	30,882	9,799	9,696
	指標	受益者	限界集落住民	(B)	68	199	230

	評価項目		評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)																	
		· 事業実	施に対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い				ため、対象地域住民の多くが																	
1	市民ニーズ の確認		勢の変化など時の経過に伴い	ニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	り、行事や共同作業の開催が困難となっているため、支援員 参加に対しニーズが高い。 また、水源確保等、新たな視点からの地元への提案を行うな																		
		は減少し	ていないか		C (0)	ニーズが低い			改善効果が認められる		211746																
					A (2)	事業主体を見直す	余地はない																				
2	市が実施する 必要性		市が事業主体であることは妥当か 国・県・民間の活動と競合していないか			一部見直しが必要	である	Α		ニティの維持が困難になりつつ 援の方策を打ち出し、実行す。																	
					C (0)	市が実施する必要	性が低い		g (8) 0;																		
					A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		京島 キの ひって マン	7.生 さのに ホ い 共 日 / に ぞ わ !	·																
3	活動内容の 有効性		Fる成果があがっているか 標などの目標値の達成状況は	はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	により、地域の活性化力	る集落の行事や共同作業など が図られ、また定期的な集落へ 先い出されるなどの効果があっ	の巡回に																
					C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		より、集落の問題点が洗い出されるなどの効果があった。																		
			長小限のコストで事業を実施できている。 委託化など事業の効率化・省力化に向け		A (2)	事業効率化・コスト組	縮減等の改善の余地はない		集落支援員については、年間120万円の委託費とその他、 経費により事業実施されているが、必要経費については、 に必要な範囲の支払いに限り財政負担しており、最小限度 ストで事業を実施できている。																		
4	の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負 減する余地はないか		担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	Α																			
			なする余地はないか 受益者負担は適正か			C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			ストで事業を実施できて	ている。																	
		·事業の があった	実施が市の政策、施策の推進 か	に効果	A (2)	効果があった			高齢者が多く暮らす限	界集落において、若い集落支	援員の活																
5	政策面に おける効果	上で有効	画及び主要計画等の目標達成を図った。 では、 は、のままない。		こ機能したか		こ機能したか		に機能したか		こ機能したか		に機能したか				こ機能したか		に機能したか		B (1)	ある程度効果があ	った	В	で過疎集落を見ることに	受け入れられており、また外がによる課題や問題点、改善点が	よどを堀り
		・市長公司	ドの美現を図る上で有効に機 	能した	C (0)	あまり効果が見られ	れなかった		起こし、学伎の適味対象	策に役立てて行くことができる。 -	1																
		合詞	†	8	8	/ 10 →			100点換算	80	点																
(ГД	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	果題 うに何が	2年間の活動実績を踏まえて る。	洗い出した	た課題解	決に向け、集落支持	景員事業が終了した以降も:	地域力が	*************************************	みづくりについてを検討してい	〈必要があ																
(参考) H24事業評価結果 (二次評価) ・活動範囲を拡大し、多くの集落で成果が得られるようにする必要がある。																											
4 .	今後の方向性(Action)																									
	課題等に対す	z																									
		(a)	・集落支援活動の最終年度となるため、この活動の効果が継続・発展していくような提案書を成果として作成する																								

	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	0	H25完了予定
次年度の						
実施方針 (担当課評価)						

廃止の検討 O H25完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)					
(正画体 404万体 为4040年间)					

拡大

事	21 番枝	399	- 焼岳噴火防災啓発事業	担当課			上宝支所 地域振興課	内線 3911			
	会計	1	一般会計	_位 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事			
予	款	2	総務費	位別 置予		В	一般予算の上乗せとして実施されてい	いる事業			
算	算 項		総務管理費	一付算の	0	С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業			
	目	13	災害対策本部費	"	D		その他事業				
	根拠計画		地域振興計画								
1	市長公約	52	土石流等の自然災害に備える防災施設の施工を進	め、実践的な	诉货	を訓練	東を実施します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	奧飛騨温泉郷地域住民	対象者数	1,452	人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	焼岳における気象庁の噴火警戒レベルが導入されたことを受け、有事 ニズム等を周知することで、奥飛驒温泉郷の地域住民の安全と安心を研		啓発や火山噴火の	メカ
概要	事業の 実施手法 (手段)	指定避難所看板の設置 (3基)			

2 事業の推移・結果(Do)

		H24の実績	・避難誘導看板の設置 ・避難体制等のリーフレット作成 ・講演会等の開催	(15基 (1, 0 (1回)					
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	活動	南丞脳坦自御町	「内会火山噴火避難訓練参加率	%	目標値		100	ţ	50
	期 指	关术等温水 烟叫]内云大山噴入赶無訓袜参加车	70	実績値		32	-	
	標	算出根拠等	対象地域住民の参加者率		達成率(%)		32	-	
	活動	かけい音 小波難制	練調整会議実施数		目標値		2		2
	判指	八山東八紅無山	川林明正女磁大池女	1	実績値		2	-	
	標	算出根拠等	避難訓練等のための調整・準備会認	義の回数	達成率(%)		100	-	
					目標値				
成					実績値			-	
果面		算出根拠等			達成率(%)			-	
山					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
				補	足事項				

		(人件費る	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	0	556	300
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
F	源 内	他特定財源(国	·県支出金·起債等)				
面		財源				556	300
	コスト			(A/B)		373	207
	指標	受益者	奥飛騨温泉郷地域住民	(B)		1,490	1,452

	評価項目	評価観点		評価		評価	部/無 ct 2	容の説明(評価の理由等)		
	正脚視日	aT			<u> </u>	計Ⅲ	計画的	ひ説明(計画の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は	A (2)	ニーズが高い			- 左京に供うまけた開始	維体制の構築と火山噴火のメカニズムに		
1	の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴い二 は減少していないか	B (1)	ある程度のニーズ	゚ゕ゙゙ある	Α		することは喫緊の課題であり、住民から		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い						
			A (2)	事業主体を見直す	「余地はない			保するためには、地域住民の協力と自立 -体となり危機意識の啓発を繰り返し図		
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	そである	Α	ることで災害に強い地域	一体となり危機思識の各発を繰り返じ固 或づくりを周知させることが大切であり、 はするよう市が中心となり行なうべきであ		
			C (0)	市が実施する必要	[性が低い		る。			
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている			或住民の連携や避難行動については、		
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はど	i うか B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	避難誘導看板の設置や避難体制リーフレットの配布により 民意識の啓発において効果が上がった。 ・地域により自然災害に対する危機意識の温度差がるため			
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		道な啓発活動を行なう			
	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実			事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない					
4	の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	Α		るため、国・県等の協力により講演会講 k験車両等の提供を受け、地域住民が興 lli練内容とした		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進にがあったか	-効果 A (2)	効果があった				とした防災対策を進め、市長公約である 災施設の施工と実践的な防災訓練の実		
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか	を図る B (1)	ある程度効果があった		Α	施」を目指す上で効果だい中学校との合同避難	があった。 雑訓練の実施は、地域・学校・行政等が		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		一体となって子どもたち 効果があった。	の安全を確保する初動確認活動として		
		合計	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90 ^点		
(۲,	分析・評価で 明らかになった。 」評価にするため 必要なのかを記	<mark>果題</mark> ・災害に対する地域間における	6危機意識につい	ヽての温度差を、地	I 道な啓蒙活動やより実践的	な実施訓	練を行うことにより改善を	- 佐図る。		
	(参考) H24事業評価結果 (二次評価) ・住民の安全を最優先に、避難体制を確実に周知する方法について検討する必要がある。									

課題等に対する 今年度の対応状況

・地域住民への緊急時における避難行動の取り方について反復した啓蒙活動を行なうために、町内会や各種団体等との情報交換を行い協力体制を整える。 ・小、中学校に新たに保育園を加えた合同避難訓練等を実施し、保護者会やPTAとの連携体制を強化する。

		維持•改善		拡大		縮小		廃止の検討	0	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	•看板	設置等設備的な事業につい	ヽてはH	25で完了するが、災害時に	こおける	る住民の避難体制構築のだ	∈めの過	産難訓練や啓蒙活動につい	ては継	続した取り組みを行なう。

	維持•改善	拡大	縮小	廃止の検討	0	H25完了予定
二次評価						
火計1回 (企画課・総務課・財政課評価)						

事	¥名 番枝	499	地域歯科診療継続支援事業	担当課			上宝支所 地域振興課	内線 3912
	会計	1	一般会計	位智		Α	合併前から実施されているイベント・行	事
予	款	4	衛生費	置型 B 一般予算の上乗せとして実施さ			一般予算の上乗せとして実施されてい	る事業
算	算 項 1		保健衛生費	付算	0	С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業
	目	4	地域医療対策費	່"		D	その他事業	
	根拠計画							
			医療・福祉を充実させます。 地域医療を充実させるため、医療機関への支援額を	増額します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	上宝·奥飛騨温泉郷地域住民	対象者数	3,359	人			
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	当地域が無歯科医療地域の状況に陥ることがないよう、現歯科診療所の運営に対し支援を行う。						
概要	事業の 実施手法 (手段)	現歯科診療所を運営する医療法人が、運営の継続に必要としている歯	料医療機器の更新に	対し補助する。				

2 事業の推移・結果(Do)

H24の実績	平成25年度新規事業
--------	------------

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	泰利医泰撒思 亚	5 AC - A- %h	4	目標値	2	0	10
	動指	歯科医療機器更	2 新 百 致	台	実績値	2	0	-
	標	算出根拠等	歯科医療機器更新台数	•	達成率(%)	100		-
	成	受診者数		,	目標値	6,000	6,000	6,000
	果指	文衫有数		^	実績値	5,391	5,727	-
	標	算出根拠等	年間受診者数	•	達成率(%)	90	95	-
					目標値			
成	成				実績値			-
成果		算出根拠等		•	達成率(%)			-
面					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		•	達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)		·	-
				44	口古古			

		(人件費を	事業費 ・除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	5,000	0	5,000
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
+	源 内)他特定財源(国·	·県支出金·起債等)				
面		財源			5,000	0	5,000
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	1,439	0	1,489
	指標	受益者	上宝·奥飛騨温泉郷地域住民	(B)	3,474	3,421	3,359

3	分析·評価(C	heck)	※平月	成24年度の実績を	·評価						1			
	評価項目			評価観点			評価	基準		評価	評価内容	容の説明(評価	の理由等)	
	+== -		施に対す	る市民ニーズの傾向に	はどう	A (2)	ニーズが高い			評価				
1	市民ニーズの確認	か ・社会情 は減少し		となど時の経過に伴い	ニーズ	B (1)	ある程度のニース	ぐがある		対象	平成25新規事業			
		は減少し	Cunau	·/J·		C (0)	ニーズが低い			外				
						A (2)	事業主体を見直す	ナ余地はない		評価				
2	市が実施する 必要性			きあることは妥当か 舌動と競合していないか	jv.	B (1)	一部見直しが必要	更である		対象	平成25新規事業			
						C (0)	市が実施する必要	要性が低い		外				
						A (2)	目的とする成果か	・十分にあがっ	っている	評価				
3	活動内容の 有効性			があがっているか)目標値の達成状況は	どうか	B (1)	目的とする成果か	「ある程度あた	がっている	対象	平成25新規事業			
						C (0)	目的とする成果があ が必要である	うがってないため	大幅な見直し	外				
				で事業を実施できてい		A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善	の余地はない	評				
4	執行方法 の効率性	施手法に・国等の	改善の: 補助金σ	余地はないか D活用など市の財政負		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		価対象	平成25新規事業					
		減する余 ・受益者:				C (0)	効率化が図られてし 要である	ないため大幅	な見直しが必	象 外				
		·事業の? があった	実施がす	5の政策、施策の推進	に効果	A (2)	効果があった			評				
⑤	政策面に おける効果		画及び主	E要計画等の目標達成 したか	を図る	B (1)	ある程度効果があ	あった		価対象	平成25新規事業			
		·市長公 か	約の実現	見を図る上で有効に機関	能した	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		象 外				
		合語	i †				/		\rightarrow		100点換算	評価	対象外	点
	明らかになった。 ム」評価にするため 必要なのかを記 (参考) H24事業評価的 (二次評価)	結果												
4	今後の方向性((Action)												
	課題等に対す 今年度の対応∜													
				維持·改善			拡大		縮小		廃止の検討	ŧ 0	H25完了	予定
	次年度の 実施方針 (担当課評価))				1					,	11		
				維持·改善			拡大		縮小		廃止の検討	t 0	H25完了	 予定
(企	二次評価 (企画課・総務課・財政課評価				ı						1	11		

事	業名 624 番枝	199	北アルプス飛騨側登山道整備事業	担当課			上宝支所 基盤産業課	内線 3931	
	会計	1	一般会計	告 位別		Α	合併前から実施されているイベント・ぞ	事	
予	款	6	商工費	直之	0	В	一般予算の上乗せとして実施されている事		
算	項	2	観光費	付算ける		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業	
	目	3	自然公園費	′′		D	その他事業		
	根拠計画		地域振興計画						
	市長公約		積極的な観光振興策を実施します。 ・飛騨高山の自然環境を利用したグリーンツーリズム ム、自分だけの製品をつくるクラフトツーリズムなど、						

1 事業の目的・概要(Plan)

ſ		誰を(対象)	上宝・奥飛騨地域の住民	対象者数	3,359 人	
	目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・登山道整備による北アルブス登山者の安心・安全確保及び周辺整備			
	概要					

2 事業の推移・結果(Do)

·木製階段工 秩父岩方面100段、笠新道抜戸出合50段 H24の実績

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	活	協議会との打合	14		目標値	3	3		3
	動指	励職去との打合	E	ш	実績値	4	6	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	133	200	-	
	活	現地踏査			目標値	0	2		2
	動指	現地質宜		ш	実績値	2	3	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)		150	-	
	成	登山者の対前年	%	目標値	100	105		105	
成	果指	金山石の刈削キ	比割百	70	実績値	91	124	-	
成果	標	算出根拠等	登山者数は飛騨側登山届提出数		達成率(%)	91	118	-	
面					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			ı	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			ı	
			•		目標値				
					実績値			1	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					m struct				

		(人件費を	事業費 ・除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	1,712	1,260	2,000
コス		者負担(使用料·	•負担金等)				
F	源 内	他特定財源(国・	·県支出金·起債等)				
面		以財源			1,712	1,260	2,000
	コスト	受益者1件当た	り(円) (/	A/B)	493	368	595
	指標	受益者	上宝·奥飛騨地域住民(4月1日現在)	(B)	3,474	3,421	3,359

3		heck) ※平成24年度の実績を評	平価						
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は	A (ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニー	. –ズ B (ある程度のニーズ	がある	Α	・近年の中高年層を中心 全確保は重要な課題と	ひとする登山ブームにより、登山道の なっている	
		は減少していないか	C ((ニーズが低い					
			Α (事業主体を見直す	「余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	В (一部見直しが必要	!である	Α	・高校総体時に旧上宝 理を行う必要がある	村で整備した登山道であるため、市か	
			C (市が実施する必要	煙性が低い				
			Α (目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はど	:うか B (目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	・北ア遭対協や観光協会ないため、整備の効果に	会へ登山道に関する苦情等は入って「 は上がっている	
			C (目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できている: ・委託化など事業の効率化・省力化に向け		事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない		・資材運搬をヘリコプターに頼らざるを得ないことや、修繕値 へは山小屋から徒歩で行かざるを得ないなど、コスト縮減が 難な事業であはあるが、工期を短縮する資材や工法の取り れを検討することによりコスト縮減に取り組んでいる		
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	В.	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	В			
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C ((効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に対	:効果 A (:	効果があった					
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか	D (ある程度効果があ	らった	В	階段の設置により、登 ことに寄与している	山者の負担軽減や登山道の荒廃を降	
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能しか	C (あまり効果が見ら	れなかった				
		合計	8	/ 10	\rightarrow		100点換算	点 08	
(ГД	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入) ・3000m級の山岳地帯の歩道であり、構造物等の設置はできないこともあり、万全の対策は困難であるが、登山者の安全確保のためには不断の取り組みが重要で ・登山道の抜本的な改良工事は、計画的に別予算で実施する必要がある								
	(参考) H24事業評価 (二次評価)		持連絡協議	会や関係官庁と連絡を	E取りながら現状どおり事業	を実施す	- శ్		

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・北アルプス飛騨側登山道等維持連絡協議会と連絡を取りながら、来年度以降の実施予定箇所についても現地踏査を実施する

	0	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H25完了予定	
次年度の 実施方針 (担当課評価)	·北ア/	ルプス飛騨側登山道等維持	持連絡 協	弘議会や関係官庁と連絡を	取りな	がら、現地踏査を行った上	で現状。	どおり事業を実施する			
	_		_	ı			_	1	_		

縮小

廃止の検討

H25完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものとの整合を図って実施する必要がある。

拡大

維持·改善

事	72: 番枝	399	市道改良事業	担当課			上宝支所 基盤産業課	内線 3941	
	会計	1	一般会計	位特		Α	合併前から実施されているイベント・行事		
予	款 7 土		土木費	世間の世界の		В	- 般予算の上乗せとして実施されている		
算	項	2	2 道路橋りょう費		0	С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	3	道路新設改良費	່"		D	その他事業		
	根拠計画		地域振興計画						
	市長公約		支所地域と市街地を結ぶ主要道路の整備や都市計	画道路の整	備を	進め	ます。		

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	上宝町住民及び市街地への通勤者	対象者数	500	戸				
目的	どういう状態 にしたいのか (意図) 地域からの要望も多く、合併後も通行量が増大している上宝町と高山市街地を最短で結ぶ市道上宝丹生川線の初 距改良、法面改良及び待避所を設置し、安全に通行できるよう整備する。								
概要		規距改良(カーブ改良) 6箇所 L=180m 法面改良 6箇所 L=120m 待避所設置 4箇所							

2 事業の推移・結果(Do)

		H24の実績	法面改良 土工 岩掘削 V=49m3, コン	クリート吹	7付工 t=15cm	m A=115m²		
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	担务办自,注流:	改良·待避所設置	筒所	目標値	1	1	2
	動指	忧止以及 左回	X 及 · 付起 / I 放 但	回	実績値	1	1	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果	交通事故発生件	. 数r	件	目標値	0	0	0
	未 指	人 应学以元工日	-90	- 11	実績値	0	0	-
	標	算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
成					実績値			-
果面		算出根拠等			達成率(%)			-
皿					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
			_	補	足事項			

_									
				(人件費を	事業費 ・除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
					歳出(千円)	(A)	1,911	1,890	5,000
	コス		益	者負担(使用料	•負担金等)				
•	ŀ	源 内	の	他特定財源(国·	·県支出金·起債等)				
ì	面						1,911	1,890	5,000
ı		コスト		受益者1件当た	り(円)	(A/B)	3,822	3,780	10,000
ı		指標		受益者	上宝地域住民及び市街地方面からの通勤者	(B)	500	500	500

		元本 / TT 4.8 . 上		The last	++ 2#-	5m /m	Exp from 1 a	ウェ=×-m /==/m ュ m ナ /か)	
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は。	A (2	ニーズが高い			高山市内への最短ル・	ートとして利田が多い	
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニ・	-ズ B (1	ある程度のニーズ	゚ゕ゙゙ある	В		が、災害時等緊急時の迂回路として利用	
		は減少していないか	C (0	ニーズが低い					
			A (2	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1	一部見直しが必要	草である	Α	道路管理者として、維持	寺工事は必要である。	
			C (0	市が実施する必要	厚性が低い				
			A (2	目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はど	:うか B (1	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	落石等が解消され,安全	≧な通行が確保できた。	
			C (0	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できている。		事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性			事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	Α	・局部改良であるため、測量費及び工事費を抑制できる。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に対あったか	効果 A (2	効果があった					
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか	B (1	ある程度効果があ	うった	В	上宝町の利用が多いか が可能である。	、災害時等緊急時の迂回路として利用	
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能 か	C (0	あまり効果が見ら	れなかった				
		合計	8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80 点	
(ГД	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	果題 たしに何が 危険な箇所が多くあるため、積板	極的に工事を	行い安全確保に努め	なければならない。			l	
	(参考) H24事業評価& (二次評価)	計画的に実施する必要がある。							

課題等に対する 今年度の対応状況

局部改良を行い、通行の安全を確保する。

	0	維持・改善		拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定	
次年度の 実施方針 (担当課評価)	安全に	ニ通行するため、落石を防止	上する法	も面の改良を実施する 。				
	0	維持•改善		拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定	Ī

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・計画的に実施する必要がある。

ledi	218 審棋	899	- 奥飛騨温泉郷自然環境活用事業	担当課			上宝支所 基盤産業課	内線 3931		
	会計		一般会計	特 位別		Α	合併前から実施されているイベント・行	事		
予	-		総務費	III		В	一般予算の上乗せとして実施されてい	せとして実施されている事業		
算	項	1	総務管理費	一付算の		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業		
	目		18 環境政策費		0	D	その他事業			
	根拠計画		地域振興計画							
	市長公約 1 ・飛り		積極的な観光振興策を実施します ・飛騨高山の自然環境を利用したグリーンツーリズム 使ったヘルスツーリズム(健康に良い旅行)、自分だ 薬と一体となった旅行スタイルを生みだします。	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・						

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	上宝・奥飛騨地域の住民	対象者数	3,359	人				
目的									
概要	事業の 実施手法 (手段)	当該事業の目的に沿う体験型事業実施者に対し、その事業にかかる経	京事業の目的に沿う体験型事業実施者に対し、その事業にかかる経費の一部を補助する						

2 事業の推移・結果(Do)

		H24の実績	実施団体数:1団体 イベント開催数:7種のイベントで延ん 参加者数:延べ604名	ベ126回開	催			
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活動	体験型事業開催	· 征 日 数	П	目標値	262	127	276
	指	件 秋 王 尹 末 所 旧	连 L 奴	1	実績値	133	126	-
	標				達成率(%)	51	99	-
	成	体験型事業参加	1去粉	人	目標値	1,500	1,400	2,460
	果指	件 歌 王 尹 未 岁 ル	1 d XX	^	実績値	650	604	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	43	43	-
					目標値			
成					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
血					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

		(人件費を	事業費 ・除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出(千円)	(A)	1,800	2,000	2,500
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
F	源 内)他特定財源(国·	·県支出金·起債等)				
面		財源			1,800	2,000	2,500
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	518	585	744
	指標	受益者	上宝·奥飛騨地域住民(4月1日現	在) (B)	3,474	3,421	3,359

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

-	評価項目		評価観点		評価基	準	評価	評価内容	₹の説明(評価	の理由等)	
		. = # = # !-	対する市民ニーズの傾向はどう	A (2	ニーズが高い						
D	市民ニーズの確認	か	- 対する市民――人の傾向はとう)変化など時の経過に伴いニース	В.,	ある程度のニーズ	がある	В	グリーンツーリズムをは は大きいと思われるが、 移っていない			
		は減少してい		C (0	ニーズが低い			移つ(いない			
				A (2	事業主体を見直す	余地はない					
2)	市が実施する 必要性	・市が事業主・国・県・民間	E体であることは妥当か 間の活動と競合していないか	В (1	一部見直しが必要	である	Α	・事業主体は体験型事態 助成を行うことは妥当で		り、市長公約実現に向け	
				C (0	市が実施する必要	性が低い					
				A (2	目的とする成果が	十分にあがっている		・中部山岳国立公園の雄大な自然を活かした魅力的な体験な			
3)	活動内容の 有効性		成果があがっているか とどの目標値の達成状況はどうか	В (1	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	プログラムを数多く計画し、参加者数は一定数あるものの、 理的に大都市圏から遠く、日帰りでの参加者を数多く見込め			
		,,,,,		C (0	目的とする成果があっか必要である	がってないため大幅な見直し		い			
		・最小限のコ ・委託化など	ストで事業を実施できているか 事業の効率化・省力化に向け実	A (2	事業効率化・コスト級	諸滅等の改善の余地はない					
1)	執行方法 の効率性	施手法に改む	善の余地はないか h金の活用など市の財政負担を輔	В.	事業効率化・コスト縮	咸等がある程度図られている	В	・イベント開催の実費に ト縮減に対して指導を行		あり、事業の効率化、=	
		減する余地は ・受益者負担		C (0	効率化が図られている 要である	ないため大幅な見直しが必					
		・事業の実施があったか	感が市の政策、施策の推進に効 り	A (2	効果があった						
5)	政策面に ・総合計画及び主要計画等の おける効果 上で有効に機能したか		なび主要計画等の目標達成を図 機能したか	D (1	ある程度効果があ	った	Α	・事業主体も地元の観光 沿ったプログラムを提供 域活性化までには至って	しているが、参		
	・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか			C (0	あまり効果が見られ	いなかった		-WILLION C1410-1-3			
		合計		8	/ 10	\rightarrow		100点換算		80 <u></u>	
	分析・評価で 明らかになった	75									
	A」評価にするため 必要なのかを記 のである。 (参考)	課題 ・事 ・まし、 ・まし、 ・まし、 ・まし、 ・まし、 ・まし、 ・まし、 ・まし、	*業主体中心のPRのみでは情報 知名度を上げる必要がある がある がある がある がある がある がある がある がある がある								
([Д	AJ評価にするた8 必要なのかを記 (参考) H24事業評価 (二次評価)	課題 めに何が さ入) 結果 の1	知名度を上げる必要がある								
(FA	A」評価にするため 必要なのかを記 (参考) H24事業評価網	課題 ・ はこれ) ・ 結果 H2: のi	知名度を上げる必要がある	期間終了	後の自立を促すため、	外部の専門事業者への金					
[F	A」評価にするため 必要なのかを記 (参考) H24事業評価 (二次評価) 今後の方向性(課題等に対す	課題 ・ はこれ) ・ 結果 H2: のi	知名度を上げる必要がある 5までの補助金交付につき、補助 事業実施を求める。	期間終了	後の自立を促すため、	外部の専門事業者への金			小させ、自己の		
([Д	A」評価にするため 必要なのかを記 (参考) H24事業評価 (二次評価) 今後の方向性(課題等に対す	課題 ・ L、 ddA) ・ A the H2 の in the H2 in the	知名度を上げる必要がある 5までの補助金交付につき、補助 事業実施を求める。 5素実施の中で、補助期間終了を	期間終了	後の自立を促すため、 な割やPR方法について	外部の専門事業者への金		⇔講師派遣を段階的に縮	小させ、自己の	のノウハウと人材のみ	

A	218 業名 番枝	899	上宝・奥飛騨堆肥センター 生ごみ処理推進事業	担当課			上宝支所 基盤産業課	内線 3931
	会計		一般会計	特 位別		Α	合併前から実施されているイベント・行	事
予	Andre .		総務費	旦マ		В	一般予算の上乗せとして実施されてい	いる事業
箅	+4	1	総務管理費	付算の		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業
			18 環境政策費		0	D	その他事業	
	根拠計画		地域振興計画					
	市長公約		豊かな自然環境を守り、環境モデル都市をつくります ・地球温暖化の対策、生物多様性の保全活用など、 重要な問題であるため、パイオマスの利活用や間伐 します。 ・温室効果ガス排出量を2020年までに25%削減(1990	環境保全は 材・林地残材	才製品			

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	上宝・奥飛騨地域の住民	対象者数	3,359	人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	上宝・奥飛騨バイオマス利用促進協議会の事業実施により、上宝町地区なっている(有)奥飛騨エコセンターの生ごみ受け入れた堆肥生産の効率 者及び堆肥消費者の双方に対し広く広報活動を行い、(有)奥飛騨エコセ 型社会の形成を目指す。	化・生産コストの縮減	を図る。また、原料化	供給
概要	事業の 実施手法 (手段)	上宝・奥飛驒バイオマス利用促進協議会が行う事業(①地域啓発事業② 験事業④生ごみ処理省力化事業⑤畜糞搬入助成事業)に対し、3年間を			E試

2 事業の推移・結果(Do) ・地域啓発・実証試験事業として、(1) 地域啓発事業、(2) 家庭ごみ処理試験事業、(3)堆肥施用実証試験事業を行っ

算出根拠等

		H24の実績	・経営改善事業として、(1)生ごみ処 業)、(2)畜糞搬入助成事業を行った ・当事業により家庭ごみ4.9tを焼却り	理省力化	事業(ペール缶	· 反転機械購入事業		
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	啓発広報誌発行			目標値	4	3	3
	動指	古光丛戦祕光1.		ш	実績値	4	1	-
	標	算出根拠等	年間発行回数		達成率(%)	100	33	-
	成日	生ごみ処理量		t	目標値	130	140	140
	果指	エこの処理里			実績値	130	135	-
	標	算出根拠等	事業系・一般家庭生ごみ年間処理	Ē	達成率(%)	100	96	-
					目標値			
成					実績値			-
果工		算出根拠等			達成率(%)			-
面					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			

達成率(%)

		(人件費を	事業費 ・除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	2,500	2,500	2,500
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内	他特定財源(国·	・県支出金・起債等)				
面		財源			2,500	2,500	2,500
	-1/AT-	受益者1件当た	り(円) (A/B)	720	731	744
	指標	受益者	上宝・奥飛騨地域住民(4月1日現在)	(B)	3,474	3,421	3,359

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

	評価項目		評価観点			評価。	基準	評価	評価内容	容の説明(評価	iの理由等)			
		. 車業宝佐に	対する市民ニーズの傾向	+ ばこ	A (2)	ニーズが高い			·コンクールで「ロオー」	トたった坐の	+ 産典宝が休田して	1 \ Z		
1	市民ニーズ の確認	か	変化など時の経過に伴い。		B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	とや、当事業での啓発を	チラシなどによ	り地域住民は堆肥し	こつし		
		は減少してい	ないか	Ī	C (0)	ニーズが低い			付かず、一部農家へは	冬生産分を春	ド成に向けた助成を行うことは妥当れる堆肥の効用は地域に広く知ればく有用な事業家が減少し、堆肥の原かかかかっている。 カルにより、コスト縮減を図るためのコスト縮減に努力している。 ルとなりうる事業ではあるが、畜糞の環境が残っている。			
					A (2)	事業主体を見直す	余地はない		・事業主体は上宝・奥飛驒バイオマス利用促進協議会であり 市長公約の循環型社会形成に向けた助成を行うことは妥当(
2	市が実施する 必要性	・市が事業主・国・県・民間	体であることは妥当か の活動と競合していないか	'n	B (1)	一部見直しが必要	である	Α						
					C (0)	市が実施する必要	性が低い		<i>න</i> ්					
					A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		・畜糞と生ごみからつく	られる堆肥の刻	カ用は地域に広く知	れ渡		
3	活動内容の 有効性		成果があがっているか どの目標値の達成状況は	どうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	ていることから、需要も多く有用な事業であるが、上宝・奥 地域の農業構造の変化により畜産農家が減少し、堆肥の			飛騨		
					C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		となる畜糞の運搬にコス	ストがかかって	いる。			
			ストで事業を実施できてい 事業の効率化・省力化に向		A (2)	事業効率化・コスト約	宿滅等の改善の余地はない							
4	執行方法 の効率性	国等の補助	きの余地はないか 金の活用など市の財政負	担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	В)の 導		
		減する余地は ・受益者負担			C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必							
	があったか		総合計画及び主要計画等の目標達成を図る B (1) ある程度効果がる											
5	政策面に ・総合計画及び主要計画等の目標達成 おける効果 上で有効に機能したか	B (1)			(1) ある程度効果があった		В	・循環型社会形成のモー 搬入コスト削減について	デルとなりうる C課題が残って	事業ではあるが、畜 こいる。	糞の			
				能した	C (0)	あまり効果が見られ	れなかった							
		合計	숌計		8 / 10				100点換算		80	点		
(۲۵)	分析・評価で 明らかになったき A.評価にするため 必要なのかを記 必要なのかを記 (参考) H24事業評価》 (二次評価)	#題 ·家 らに何が ·奥 入)	飛騨エコセンターでの堆肥	3生産につ	いては、	、生ごみ処理および	データを得ることを事業者と 堆肥生産における更なるコ は肥生産における更なるコ	スト削減	と、畜糞・生ごみ等の原材	材料の確保が	必要である。			
1 4	今後の方向性(課題等に対す 今年度の対応も	<mark>る・</mark> 奥					畜糞の収集について、現状 理の省力化につながる事3				業者と協議する。			
			維持·改善			拡大	縮小		廃止の検討	t 0	H25完了予	定		
	次年度の 実施方針 (担当課評価)													

事	事業名		199	高原土地改良区水路管理助成事業	担当課			上宝支所 基盤産業課	内線	
		番枝							3931	
	会	it	1	一般会計	特 位別		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予	款	農林水産業費	III	B 一般予算の上乗せとして実施されて			いる事業			
算	算 項 4 農業土木費 目 1 農業土木総務費			農業土木費	付算け		С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
				農業土木総務費	" o	0	D	その他事業		
	根拠計画 地域振興計画									
市長公約 3 産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立し ・農業生産額250億円を目指します										

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	上宝地域住民	対象者数	1,229
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・受益面積約185haの高原用水の維持管理費を助成することにより、農業図る	業用水路の適正利用と	と農業生産性の向上を
概要	事業の 実施手法 (手段)	・高原土地改良区が行う高原用水の維持管理事業に対する助成		

2 事業の推移・結果(Do)

		H24の実績	・施設の見回り点検・施設の補修					
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活				目標値	330	300	300
	動指	見回り・点検回数	牧	□	実績値	298	290	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	90	97	-
	成	No. of the		0	目標値	0	0	0
	果指	断水回数		ш	実績値	0	0	-
	標	算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
成					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
田					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

断水回数は自然災害や計画的なものを除く施設の突発事故等による回数を計上

	_							
			(人件費	事業費 と除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
				歳出 (千円)	(A)	700	700	700
=	H/		益者負担(使用料	•負担金等)				
۱	一点	* マ(D他特定財源(国	·県支出金·起債等)				
æ	ī					700	700	700
		コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	543	549	570
	1	指標	受益者		(B)	1,289	1,276	1,229

_	分析・評価(CI 評価項目	heck) <u>※平成24年度の実績を記録の実績を記録である。</u>	ш	評価	其淮	評価	評価内2	容の説明(評価の理由等)	
	II IM-X II		А	(2) ニーズが高い	*	вт іш			
1	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニ	どう	(1) ある程度のニーズ	がある	Α	た重要な施設であり、記	心だった上宝地区の農業を水り 近年では生産物が高品質で市場 る、ブランド化や生産額向上に終	易でも高い
	の推設	は減少していないか	-^ c	(0) ニーズが低い			ている	つ、ノブント1679生産銀円工に下	ייונויטם
			А	(2) 事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	В	(1) 一部見直しが必要	である	Α	・事業主体は高原土地 行うことは妥当である	改良区であり、維持管理経費の	D助成を
			С	(0) 市が実施する必要	性が低い				
			А	(2) 目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はど	έラか Β	(1) 目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	・生活用水や冬期の融 は十分上がっている	雪用水としての利用もあること	から、成界
				(0) 目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できている ・委託化など事業の効率化・省力化に向け		(2) 事業効率化・コスト	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	_{旦を軽} B	(1) 事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	В	・限られた予算内での に努力している	事業であるため、事業主体はコ	スト縮減
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	С	効率化が図られてい 要である	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進にがあったか	,,	② 効果があった			. 노호배생조(나쁘바죠)	集約ルめ¢カ売業ルたど 主画 <i>t</i>	- 典 - 华 - 佐
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能	В	(1) ある程度効果があ	iots	Α	・上宝地域では農地の集約化や6次産業化など主要な 策に積極的に取り組んでいる地域であり、農業用水の 供給は施策実現に欠かせないものである		
		・中長公利の美現を図る工で有効に機能か	C	の あまり効果が見ら	れなかった				
		合計	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90	点
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	果題・市内の他土地改良区に対する りに何が 討する必要があるが、修繕・改り						土地改良区同様の対応とする	ことも検
	(参考) H24事業評価結果 (二次評価) ・補助金の継続については、他地域とのバランスを考慮したうえで調整する必要がある。								

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・施設の延命化を図り、持続可能な事業となるよう現状を維持しながら実施する

	0	維持・改善		拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定	l
次年度の 実施方針 (担当課評価)	•施設(の延命化を図り、持続可能	な事業	となるよう現状を維持しなか	がら実施	も する			
	$\overline{}$	维性. 水单		#+		55 0 als	南 山 の 絵料	unsウフスウ	ſ

	•	12.1 4.2		42.	20—11 B12.	,
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	/4E 1/4					
	(担当)	課評価に同じ)				

事	業名	731 F核	99	しのぶ砂防ダム管理委託	担当課			上宝支所 基盤産業課	内線 3941
	会計		1	一般会計	特 位別		Α	合併前から実施されているイベント・行	事
予	款		7	土木費	III		В	一般予算の上乗せとして実施されてい	いる事業
算	項		3	河川費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業
	目		1	河川維持費	′′ ທ	0	D	その他事業	
	根拠計	画		地域振興計画					
1	市長公約								

1 事業の目的・概要(Plan)

	7 514 17 E E E E E				_
	誰を(対象)	地元住民(一重ヶ根・村上)	対象者数	500	戸
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・ 奥飛騨温泉郷一重ヶ根地内にある「しのぶ砂防ダム」は、だれでも気楽に なっている。その施設見学者(観光客等)へのイメージを落とさないようタ			
概要	事業の 実施手法 (手段)	しのぶ砂防ダム内歩道及び水車等の管理業務、付近の清掃等及び照明	月灯の維持管理		

2 事業の推移・結果(Do)

	1
∃24の実績	1回/週の頻度でしのぶ砂防ダム内及び水車小屋の清掃・管理業務を行った。

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	しのぶダムの管	四类数	i	目標値	144	144	144
	動指	しのふみムの官	性果務	人	実績値	144	144	-
	標	算出根拠等	48日×3人=144人		達成率(%)	100	100	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値				
成		atrici in la la atri			実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
田					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-

		(人件費を	事業費 ・除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出(千円)	(A)	160	156	220
コス		者負担(使用料·	•負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国・	·県支出金·起債等)				
面		以財源			160	156	220
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	320	312	440
	指標	受益者	一重ヶ根・村上地域住民	(B)	500	500	500

3	分析·評価(C									
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い			しのご孙昳だしけ会国	で唯一ダムの中を歩いて通	されるひにお	
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	ムで周囲には親水公園を整備しており親光客や地域の住民に親しまれている。また、イベントも多数実施されている。			
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い						
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	地元住民によるイベント開催には協力して実施する。			
			C (0)	市が実施する必要	性が低い					
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	観光客や市民に親水公園として親しまれている。 地元の児童・生徒には砂防学習の場としても利用されている。			
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し					
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実		事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない			**************************************	ら砂防堰堤内の照明などの:	日小四の本	
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	В		3砂防堰堤内の照明などの 内の花壇や草刈は地元の方		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必		2.7.2.2.20			
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった		評価				
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	った	対象				
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった	外				
		合計		/ 8	\rightarrow		100点換算	75	点	
(F.	分析・評価で 明らかになった: A」評価にするたる 必要なのかを記	課題 かに何が この施設をさらに多くの方に利用して	いただける	るようにする。						

H24事業評価結果 (二次評価)

地元町内会や観光協会と協力しながら来年度以降も継続していく必要がある。

維持·改善

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況 この施設で開催されるイベントのPR、散策・ウォーキング・トレッキング コースガイドにもしのぶ砂防ダム親水公園が紹介されているので、このようなパンフレットを旅館 や道の駅等観光施設でPRして知名度を高めて行き利用者の増大を図る。

縮小

廃止の検討

H25完了予定

	0	維持・改善		拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	地元町	T内会や観光協会と協力し	ながらぎ	矢年度以降も継続していく。	必要がま	రేశ్		
			_		_			

(企画課・総務課・財政課評価)

・所管である神通川水系砂防事務所(国)が管理すべき施設であり、特例期間終了後は国で実施してもらうよう要望する必要がある。

拡大

事	92 番枝	299	地域小学校教育振興事業 (護浦小学校交流推進事業)	担当課			上宝支所 地域振興課	内線 3913	
	会計		一般会計	_位 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
			教育費	位別 置予		В	一般予算の上乗せとして実施されている		
算	項	2	小学校費	付算ける		С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	2	教育振興費	່"	0	D	その他事業		
	根拠計画		地域振興計画						
1	市長公約								

1 事業の目的・概要(Plan)

	TAVID MY	(1 10.17)									
	誰を(対象)	本郷小・栃尾小4年生と引率者	対象者数	29	人						
目的		水見市立灘浦小学校と、本郷小学校、栃尾小学校の4年生が海の子山の子交流を行うことにより、社会性を育む課 外授業として児童の教育効果の向上に資する。									
概要	事業の 実施手法 (手段)	氷見市立灘浦小学校へ訪問する経費に対する補助金									

<u>2</u> 事業の推移・結果(Do) 海の子山の子交流事業

		H24の実績	平成24年7月17日(火)から平成24 参加人数 N=29(本郷小学校4年 ※別途、当該補助対象外の引率者	生 N=15	栃尾小学校4		†象引率者 N=4)		
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	活	士细小. 长足小	4年生と引率者数	J	目標値	28	30		29
	動指	本畑小·伽ル小·	4年生251年有数	^	実績値	36	29	-	
	標	算出根拠等	本郷小・栃尾小4年生児童数と引率	者数	達成率(%)	129	97	-	
	成田	交流事業参加率	z.	%	目標値	100	100		100
	果指	义 加争未参加年		70	実績値	100	100	-	
	標	算出根拠等	交流事業に参加した児童総数の割	合	達成率(%)	100	100	-	
					目標値				
成					実績値			-	
果		算出根拠等			達成率(%)			-	
面					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)	·		-	
					目標値				
					実績値	·		-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
				補	足事項				

		(人件費を	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	383	300	300
コス		益者負担(使用料	•負担金等)				
+	IAI .	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					
面		段財源			383	300	300
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	10,639	10,345	10,345
	指標	受益者	事業参加者	(B)	36	29	29

	評価項目	評価観点			評価基	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向に	ナゾう	A (2)	ニーズが高い			異かる社会環境の由で	課外学習を行うことは、児童自らが学び		
1	市民ニーズの確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いこ		B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	考え行動する力を育み	、今後さらに進行する高齢化社会を担え から、高齢化率の上昇とともに、ニーズ		
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い			高まっていく。			
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない			参加する2校(本郷小学校、栃尾小学		
2)	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	,	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	校)で構成する任意団体であり、児童の課外学習の実施 して妥当である。また、市が事業の助成を行うことは7次			
				C (0)	市が実施する必要性が低い			行う」の具現化に繋がり	交流などの個性や能力を伸ばす教育を リ、妥当である。		
				A (2)	目的とする成果が十分にあがっている			児童の教育の一環として実施する事業であり、将来に			
3)	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はと	どうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	量的な成果の評価は主	が表れるものであるため、短期的且つ定 5旨にそぐわないが、過疎地域に居住し 8月まが、初末部では354と11数の「名捨た		
				C (0)	目的とする成果があ: が必要である	がってないため大幅な見直し		少人数で学習している児童が、都市部では当たり前の 人との交流」を通じて社会性を育む事業として有効で			
		・最小限のコストで事業を実施できている ・委託化など事業の効率化・省力化に向		A (2)	事業効率化・コスト約	宿滅等の改善の余地はない		経費の大半は交通費と	:宿泊費(H24実績:約97%)であり、これり		
4)	執行方法 の効率性	執行方法 施手法に改善の余地はないか の効率性 ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽		手法に改善の余地はないか 等の補助金の活用など市の財政負担を軽		B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	В	上の事業費削減は困難	能である。しかし、参加者負担金がある。 れており、他地域の学校との均衡を考慮
	減する余地はないか ・受益者負担は適正か			C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必		すると、受益者負担の	割合を増やす必要がある。		
		・事業の実施が市の政策、施策の推進にがあったか	に効果	A (2)	効果があった						
5	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成 上で有効に機能したか	を図る	B (1)	(1) ある程度効果があった		Α	体験学習、学校間の交流など個性や能力を伸ばす教育(総)に寄与している。			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能 か	能した	C (0)	あまり効果が見られ	あまり効果が見られなかった					
		合計	ę	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90 Á		
(F)	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題 りに何が H27以降の当該事業の在り方に	について	、学校と	保護者及び相手校。	との協議を行うとともに、全	市域的な	対衡に配慮しつつ方向(性を定める必要がある。		
	(参考) H24事業評価約 (二次評価)		全体のバラ	ランスを	考慮し、縮小(廃止)	を検討する必要がある。					
1	今後の方向性(Action)									
	課題等に対する 今年度の対応状況 事業を継続する										

	0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	事業を	継続する				

		稚持•収書		孤大	5	箱小	廃止の模訂	H25元「予定
二次評価 企画課·総務課·財政課評価)	特例	期間終了を見据え、市全体	はのバラ	ンスを考慮し、縮小(廃止)	を検討	する必要がある。		

事	業名	209番枝	999	地域振興助成事業	担当課			上宝支所 地域振興課	内線 3911	
	会計	†	1	一般会計	特 位別		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
予	予 算 項		2	総務費	므로		В	一般予算の上乗せとして実施されている		
算			1	総務管理費	付算		С	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目		9	企画費	17 m	0	D	その他事業		
	根拠計	画								
	市長公約		12	新しいまちづくりを実現するために、次のことを市長の ・合併のメリットを生かしつつ、それぞれの地域の特・地域の個性あるまちづくりと、地域の一体感を創る	生を伸ばしま	きす。		合って取組む活動に支援します。		

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	上宝支所管内住民	対象者数	3,359	人
B BY	どういう状態 にしたいのか (意図)	地域住民の創意とエ夫による魅力ある地域づくりを推進するため、市民 支援する。	自らが主体となって取	組む地域振興事業	を
根要		地域の住民が自主的、主体的に取組む公共性の高い地域づくり事業へ	の補助金		

		H24の実績	合計26件 【内訳】 ・市道草刈等の景観保全 ・地域振興のとめの情報系		(12件) (3件)	・公園等のコミュ ・その他	(5件) (6件)		
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	i
	活	補助金交付要望	1.1+ %h	件	目標値	27	30		30
	動指	州 列亚义刊 女主	: IT XX	117	実績値	22	29	-	
	標	算出根拠等	事前要望の受付件数		達成率(%)	81	97	-	
	活動	補助金交付件数	7	件	目標値	20	22		22
	期 指		(П	実績値	22	26	-	
	標	算出根拠等	採択事業への補助金交付件数		達成率(%)	110	118	-	
	成果	補助金受益対象	老本		目標値				3,359
成	未 指	開助並又無利勢	\H +		実績値			-	
成果工	標	算出根拠等	受益者/地域住民		達成率(%)			-	
面					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
			_	補	足事項				

	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む))	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
				歳出 (千円)	(A)	7,113	4,444	5,500
コス	財	受益	者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源	その	他特定財源(国·	·県支出金·起債等)				
面	訳	一般	財源			7,113	4,444	5,500
	Π,	スト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	2,047	1,299	1,637
	指	標	受益者	上宝支所管内住民	(B)	3,474	3,421	3,359

3	分析・評価(C				1		1	
	評価項目	評価観点		評価基	準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はど	A (2)	ニーズが高い			・地域仕足が主体したし	地域に活力と潤いを与えるために創意
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニー	-ズ B (1)	ある程度のニーズが	がある	Α		となって行なう事業として住民からの
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い				
			A (2)	事業主体を見直す:	余地はない			
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	・地域力向上と地域活性 ら、市が中心となり実施	生化を推進するための事業であることだ する必要性は高い。
			C (0)	市が実施する必要	生が低い			
			A (2)	目的とする成果が一	ト分にあがっている			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどう	ъ B (1)	目的とする成果があ	る程度あがっている	Α	協力し合うことで、住民	環境の向上のために労役提供を行ない 間におけるコミュニケーションも図られま め、住民からの要望が増加している。
			C (0)	目的とする成果があた が必要である	(ってないため大幅な見直し		-WOYLL IN THE WAY	ON EDAN SONGEN AMOUNT
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け		事業効率化・コスト総	減等の改善の余地はない		14****	**
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を	B (1)	事業効率化・コスト縮減	成等がある程度図られている	В		事業コストの妥当性については十分な 効率化や不要となる補助金の支出抑制
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られていた 要である	いため大幅な見直しが必		1-33-37-28	
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に対があったか	A (2)	効果があった			业 <i>计</i>	はせぶ/リのとはにか至いまと取り入 り
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか_	B (1)	ある程度効果があっ	ot:	Α	労役提供を行うことで、	也域づくりのためにお互い手を取り合い 住民間に新たなコミュニケーションが図 を与えることは有効である。
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能し か	f= C (0)	あまり効果が見られ	いなかった		Silvingia Ciniyi	2 7/202210 13/3/20000
		合計	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90 点
(۲,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするたと 必要なのかを記	<mark>果題</mark> けに何が ・地域からの要望件数は年々増加	ロしているため	、申請された要望事	業の必要性と重要度につい	いて的確	な判断を行なう。	
	(参考) H24事業評価 (二次評価)	・平成26年度を終期としている事	業であり、執行	行内容を精査し、27	年度以降の対応について	検討する	必要がある。	

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

維持·改善

・地域間における事業バランスに配慮し、申請者と対象事業の効率化や事業コストについて綿密な打合せを行い実施する。

拡大

	0	維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	·地域	への潤いと地域力の向上を	促進す	るため、事業内容について	は精査	をしつつ継続する。		

縮小

廃止の検討

H25完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価) ・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応を検討する必要がある。

	事業名	999	地域要望対応事業	担当課			上宝支所 地域振興課	内線 3911	
	会計	1	一般会計	特 位別		Α	合併前から実施されているイベント・行	事	
F		2	総務費	<u> </u>					
算 項 1 総務管理費						С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業	
目 9 企画費					0	D	その他事業		
	根拠計画								
		新しいまちづくりを実現するために、次のことを市長の基本姿勢とします。							
市長公約 12 ・合併のメリットを生かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。 ・地域の個性あるまちづくりと、地域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取組む						合って取組む活動に支援します。			

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	上宝支所管内住民	対象者数	3,359 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	即応性が求められるため市有施設の修繕に対し、迅速に対応する。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	市道、農道、林道、水路等の公共施設の軽微な修繕		

		H24の実績	古訂 4件 【内訳】 ・市道、林道、遊歩道等の ・橋梁の修繕	舗装修繕	(8件) (2件)	・水路、側溝等の・その他)修繕 (2件) (2件)		
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	活動	修繕件数		件	目標値	21	20		20
	判指	沙帽计数		H	実績値	18	14	ī	
	標	算出根拠等	施設修繕の実施件数		達成率(%)	86	70	-	
	成	即応性		%	目標値	100	100		100
	果指	AP I/O III		,0	実績値	100	100	-	
	標	算出根拠等	要望から1ヵ月以内に実施した率		達成率(%)	100	100	ı	
					目標値				
成					実績値			-	
成果面		算出根拠等			達成率(%)			ı	
血					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			ı	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			ı	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
				補	足事項				

		(人件費	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	7,542	3,926	8,700
コス							
۲	源内	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
面		<mark>一般財源</mark> 一般財源			7,542	3,926	8,700
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	2,171	1,148	2,590
	指標	受益者	上宝支所管内住民	(B)	3,474	3,421	3,359

3	分析·評価(C	heck) <u>※平成24年度の実績を</u>	評価					
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は	Α はどう Α	(2) ニーズが高い				
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニ	=−ズ B	ある程度のニーズ	がある	Α	・地域からの要望に対し 民からのニーズは高い。	、迅速に対応する事業であることから、市 。
		は減少していないか	С	ニーズが低い				
			А	(2) 事業主体を見直す	余地はない			
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	В	一部見直しが必要	である	Α		等における軽微な修繕であるため、地域 が実施する必要性は高い。
			С	市が実施する必要	性が低い			
			А	(2) 目的とする成果が	十分にあがっている			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はと	どうか B	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	・即応する事業としての も成果が上がっている。	市民ニーズは高く、事業自体の有効性
			С	(0) 目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し			
		・最小限のコストで事業を実施できている ・委託化など事業の効率化・省力化に向		事業効率化・コスト組	宿減等の改善の余地はない			
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	_{担を軽} B	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	В		を精査し、事業の効率化や費用対効果 事業実施を行なっている。
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	С	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必			
		・事業の実施が市の政策、施策の推進にがあったか	二効果 A	効果があった				
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか	B	ある程度効果があ	った	Α	・市民の安全、安心、快 政策として有効である。	適な住環境づくりの実現を図るための
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能 か		あまり効果が見ら	れなかった			
		솜計	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90 <u>á</u>
(F.	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするたる 必要なのかを記	課題 かに何が・要望に対する即応性があるた	≿め市民ニー	-ズは高いが、事業採択I	_ こついての必要性や困窮度	を精査、	把握して実施する必要か	- 'ಹೆಕಿಂ
	(参考) H24事業評価額 (二次評価)	・平成26年度を終期としている	る事業であり		年度以降の対応について	検討する	必要がある。	

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・要望事業の必要性や費用対効果を精査し、地域バランスや事業規模にも配慮し、迅速な対応で事業を実施する。

	0	維持・改善		拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	·市民	ニーズが高いため、継続し	て実施	する。			
	0	維持·改善		拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応を検討する必要がある。

事	業名	21 ⁻ 番枝	100	簡易水道施設管理事業(土地借上料)	担当課			上宝支所 基盤産業課	内線 3941
	会	i l	1	一般会計	_位 特		Α	合併前から実施されているイベント・行	事
予	款	7	4	衛生費	位別置予	0	В	一般予算の上乗せとして実施されてい	いる事業
算	項	į	3	繰出金	付算の		С	終期を定めて実施する事業・単年度事	業
	E		2	簡易水道繰出金	" o		D	その他事業	
	根拠	十画							
	市長公司	約	58	安心安全な上水道を提供するため、施設の整備を加	速するとと	もに、	未給	水区域の解消に努めます。	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	一重ヶ根・村上・柏当	対象者数	346 戸
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	簡易水道施設土地借上料		
概要	事業の 実施手法 (手段)	一重ヶ根簡易水道取水地 A=12㎡		

2 事業の推移・結果(Do)

H24の実績	一重ヶ根簡易水道取水地の土地借り上げ。A=12㎡
--------	--------------------------

		指標名		単位	目標·実績	H23	H24	H25
成果面	活	施設用地		mî	目標値	直 82 1.	12	12
	動指			ın	実績値	82	12	1
	標	算出根拠等	土地賃貸借契約による		達成率(%)	100	100	-
					目標値			
					実績値			1
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			1
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等	·		達成率(%)			-
	_	并山水灰守		正成年(10)	<u> </u>		_	

		(人件費を	事業費 - 除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額	
			歳出 (千円)	(A)	115	17	17	
コス		益者負担(使用料	負担金等)					
F	源 その)他特定財源(国·	県支出金·起債等)					
面		般財源			115	17	17	
	コスト				332	49	49	
	指標	受益者	一重ヶ根・村上・柏当	(B)	346	346	346	

3 2	分析・評価(C 評価項目	nook) A	平成24年度の実績を 評価観点	計画	評価基準				評価 評価内容の説明(評価の理由等)					
	可测块日		計画批量				至学	a平1四	計画内谷の説明(計画の埋田寺)					
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう		はどう	A (2)	ニーズが高い								
1	市民ニーズ の確認		か 社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ は滅少していないか		B (1)	ある程度のニーズ	がある	С	他に水源がある。					
		は減少していた			C (0)	ニーズが低い								
					A (2)	事業主体を見直す	余地はない							
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体 ・国・県・民間の	業主体であることは妥当か 民間の活動と競合していないか		B (1)	一部見直しが必要	である	С	他に水源がある。					
				C (0)	市が実施する必要性が低い									
			目的とする成果があがっているか 成果指標などの目標値の達成状況はどうか		A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている	評価						
					B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	対						
					C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し	象 外						
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実		へるか 白け実	A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない	評						
4	の効率性	施手法に改善の	善の余地はないか		B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	価対						
		・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か		()= C+1	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必	象 外						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果 があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか		に効果	A (2)	効果があった		評						
5	政策面に おける効果			붗を図る	B (1)	ある程度効果があ	ote	価 対 象						
		・市長公約の実 か	€現を図る上で有効に機	能した	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった	外						
승計			0	/ 4 -			100点換算		0	点				
### (16.1) 計画にするために何が 他に水源を確保できるため25年度は土地借り上げ契約を行わない。 (16.1) 計画にするために何が 必要なのかを記入) (2.1) では、														
	~ ※ の ナ 白 州 <i>(</i>	· A - 1 · · · · \												
4 今後の方向性(Action) 課題等に対する 今年度の対応状況 他に水源を確保できるため25年度は土地借り上げ契約を行わない。														
			維持·改善			拡大	縮小		廃止の検討	4 O	H25完了 ⁻	予定		
次年度の 実施方針 (担当課評価)														
			維持·改善			拡大	縮小		廃止の検討	4 O	H25完了 ⁻	予定		
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)		(課評価)	1		1		1	I	ı	u l				